

## 議 事 録

|                  |   |
|------------------|---|
| 説 明 会 名          | 市立久代幼稚園・川西南保育所の一体化に関するタウンミーティング   |
| 事 務 局<br>(担 当 課) | こども未来部こども政策課  |
| 開 催 日 時          | 令和7年12月20日（土）10:00~13:00  |
| 開 催 場 所          | 久代幼稚園   |
| 事務局              | 川西市長 越田 謙治郎<br>教育長 石田 剛<br>こども未来部長 岡本 敬子<br>こども未来部副部長 増田 善則<br>こども未来部こども政策課長 野田 忠生<br>こども未来部こども政策課長補佐 中村 陵<br>こども未来部こども政策課 瀧田 富子<br>教育推進部入園所相談課長 岸本 匡史<br>教育推進部教育保育課長補佐 小林 文恵 |
| 参加者数             | 62人   |
| 会 議 次 第          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料に基づき説明</li> <li>・質疑応答</li> </ul>  |

※ 質疑応答の記録については、個人が特定される内容などを伏せた上で、発言者の発言内容をそのまま掲載することを基本的な考え方としています。

(事務局)

それでは、ただ今より、「市立久代幼稚園・川西南保育所の一体化」に関するタウンミーティングを開会いたします。本日のタウンミーティングは、川西市第2期子ども若者未来計画（案）に掲載しております市立幼稚園・市立保育所の一体化方針に基づき、久代幼稚園と川西南保育所を一体化した認定こども園の整備について、皆さまと意見交換をする場として開催しております。

本日は、皆さまに資料をお配りしています。右上に資料番号を印刷しておりますが、資料1～6までの6点です。皆さま、お手元にございますでしょうか。

それでは事務局よりご連絡とお願いがございます。携帯電話につきましては、マナーモードにさせていただきますようよろしくお願いいたします。また、この説明会は、お子さま連れの参加も可として開催しております。お子さまの受け入れにつきまして、あたたかいご配慮をお願いいたします。

本日の説明会は12時までを予定としております。特に休憩時間を設けておりませんので、途中でのお手洗いの利用は各自でご利用いただけたらと思います。場合によっては職員がお手洗いを利用させていただくかもしれませんがその点ご了承ください。

マスクの着用について、職員は体調の関係でマスクを着用したまま発言をさせていただく場合がありますがご了承ください。

続いて、会場内の撮影及び録音はご遠慮いただきますようお願いいたします。なお、事務局につきましては議事録調製等のため、会議の内容を録音・撮影いたしますのでご了承ください。作成いたしました議事録は市Webサイト等で公開する予定です。公開にあたりましては、個人情報に配慮し、誰がどのような発言されたかについてはわからない形で要約して公開する予定です。以上が連絡事項になります。

次に、本日の市及び教育委員会の出席者をご紹介します。

(川西市長、教育長、こども未来部部長、こども未来部副部長、入園所相談課長、教育保育課課長補佐)

(事務局)

その他、担当職員が2名と本日は手話通訳者、要約筆記者も参加しております。

それでは早速ですが、ここからは越田市長に進行をお願いしまして、まず今回の久代幼稚園・川西南保育所の一体化についての説明をさせていただき、その後に皆さまとの意見交換を行ってまいりたいと思います。

説明の後、ご意見をご発言いただける方は挙手をお願いいたします。挙手された方の中から市長が指名いたしますので、職員がマイクをお持ちします。マイクが届いたら、マイクに向かってお話しいただければと思います。

本日はできるだけ多くの方と意見交換をさせていただければと考えておりますので、指名され、マイクが届いてからご発言いただけたらと思います。

それでは市長、お願いいたします。

(市長)

おはようございます。

今日は久代幼稚園と川西南保育所を一体化をするというタウンミーティングということで、お休みの日にも関わらずたくさんの方にお越しをいただいたことをまず御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

まずは趣旨について私からお話をさせていただきます。全体2時間ですので30分以内には終わろうと思

います。そこから皆さんと意見交換をさせていただきます。

基本的には発言をしたい方は、発言をしていただいております。目処として2時間ということでご理解をいただきたいと思っております。本日のスケジュールとしてはまず、私が前半をご説明をさせていただいて、質疑応答、意見交換に時間をとりたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

まず、この一体化、そして民営化をしていくということの目的、なぜこういった取組を川西市として考えているのかという点についてお話をさせていただきます。

私たちの目標、少し聞き慣れない3号認定とか1号認定とかという言葉があるので、解説をさせていただきます。まず私たちの今、保育行政に関する大きな課題です。いわゆる待機児童と言われる、4月1日時点で保育所に入れないという方は原則としていないという数字になっています。ただですね、入れない方がいらっしゃるんです。どういう方が入れないかというと、例えば、お兄ちゃんが川西南保育所に入っているけど、妹さんが川西南保育所に入ろうと思ったら入れないので、違う保育所は空いてるけれども、違う保育所には行かずに入るのを諦めますという方を「入所保留児」という言い方をします。入れるかもしれないけど入らなかったということで、「待機」ではなく、「入所保留児」という言い方をしています。主に0歳、1歳、2歳の方に多いという状況になっています。

この3号認定と言われる0歳、1歳、2歳の方が、できるだけお兄ちゃんの後に入れるとか、希望する保育施設に入れるように少し定員を増やさないといけないということが今、川西市の目標の大きな課題の1つだということです。

もう1つが「1号認定」という言い方をしますが、1号認定というのはいわゆる3歳、4歳、5歳の幼稚園です。3歳からなので、2歳までは保護者の方がご自宅で見ると、共働き世帯が増えている現在では幼児教育を受けるという方たちはものすごく減っています。ものすごく減っているので、例えばこの久代幼稚園というのは、今、各学年もう10人いないという状況になっています。1クラスも成立しないような状況では幼児教育とは言いがたいので、保育所に入る3歳、4歳、5歳の方たちと一緒に幼児教育を受けることで、保護者が働いている、働いていないに関係なく3歳、4歳、5歳の方たちにしっかりと幼児教育や保育を提供していく、一体化していくということが私たちの今、大きな目標になっています。

令和4年度以降は、待機児童はゼロになっているけれども、例えば久代では、民間こども園を誘致したり、小規模保育所といって0歳、1歳、2歳の人だけが入る保育所を増やしたりして、203人分の定員を増やしたのですけれども、1歳児さんなどがなかなか希望の園に入れないということで、令和7年4月1日で91人の希望する園に入らなかった方がいらっしゃるという状況になっています。

その91人のうち0歳、1歳、2歳が7割で、どこに多いかというと、この川西南中学校区と川西中学校区が多いという状況です。川西南保育所の状況はというと、今定員いっぱい入っていただいておりますし、0歳児の受け入れができていないため、ニーズに応えることが出来ていない状況となっています。川西南保育所の施設を増やす、大きくするという余地もありませんので、拡充の余地がないという状況になっています。

1号認定はさっき説明した通り、今お父さんもお母さんも働いている状況があるので、なかなか幼稚園だけで成立するという状況にはないという現状です。

今言ったように0歳、1歳、2歳の方ができるだけ入れる状況をつくっていくということと、1号認定の幼稚園の機能が少人数である園と一緒にすることによって3歳、4歳、5歳の方の幼児教育もしっかりと充実させていくということと、新しい場所でより効率的にするにはどうしたらいいか考えたときに、幼稚園と保育所を一体化したこども園になって、そしてここからが多分皆さんの大きな論点だと思いますけれども、より効率的なお金の使い道として、公立として運営するのではなくて、市がお金を出すことにはなるんですけども、民間の法人さんに来ていただいて、民間の法人さんに運営をしていただくこども園に変えていこうとい

うことが、今回の一体化と民営化で私たちが目指すところです。

ですから、目的は子どもたちとか、保護者の皆さんを応援をしていくためにより良い方法は何かということで、今回、私たちが出した答えの1つ、一体化をして民営化をしていくということだと思っております。

では、次に新しいこども園のイメージですが、あくまでイメージですので多少変わるかもしれません。今、川西南保育所では受け入れることが出来ていない0歳児の定員を確保したいなと思っております。当然、1歳児、2歳児の保育所になかなか「希望するところに入れたいよ」「お兄ちゃんと妹で、違う保育園に行かないといけないよ」ということを解消するために、1歳児、2歳児も定員をできれば増やしていきたい。1号認定部分、いわゆる数が少なくなった幼稚園の部分は、各学年、5名程度を確保したい。今回、特に大きく違うのは、久代幼稚園は2年制でした。4歳児、5歳児さん、年中さんと年長さんしか受入れてないという状況を年少さんまで拡大をして、3歳児、4歳児、5歳児、3学年分をしっかりと定数を確保して、保育所だったら、保護者の方が働いていないと入れなかったものが、3歳児、4歳児、5歳児、誰でも入れる状況をしっかりと定員として確保していきたいと思っております。2号認定という3歳児、4歳児、5歳児で、お父様お母様、保護者の方が働いているケースというのは、定員は今川西市全体で大きく不足しているわけではないので、少し増やしたいなというぐらいです。

ですので、全体として、川西南保育所80人の定員を120から140名ぐらい、これは運営する事業者さんとのディスカッションの中で、最終的には決まっていくと思っておりますけども、120から140人の規模の園に拡大をしていきたいと思っております。

では、なぜ民営化しないといけないのか、民営化したいと考えているのかということについて、お話をさせていただきたいと思っております。まず前提として、多くの保護者の方から川西南保育所の保育がすごくいいというご意見をいただきました。これは私にとっても教育長にとってもとても嬉しい発言です。ご評価をいただいたことに感謝を申しあげたいと思っております。

一方で、私は公立保育園、公立こども園の総合的な責任者であると同時に、川西市全体のこどもや保育行政の責任者でもあります。その観点からすると、公立だけが素晴らしいわけではなくて、民間の園も場合によっては工夫をして、公立よりも素晴らしいような特色を出した保育をさせていただいている、そういった幼児教育を提供していただいているところもございます。ですので私たちとしては、公立と民間で保育の内容に優劣、優れているか劣っているかという評価はしておりません。同じように優れた保育、幼児教育を提供していただいているということが前提です。

ただ、一方で公立と民間施設を比べると市の負担額は、例えば、建物を建てたときは、民間が建てるよりも、市が建てた時の負担額は2.6倍かかります。運営費は、市が直接運営しているものと、民間が運営しているもので、市の負担額は1.6倍ほどかかると計算をしています。

ですので、私たちの考え方は、公立施設というのは、民間が出来ないことに特化をしていく。待機児童を解消したり、一般に保育を提供したりということは、民間の皆さんに委ね、私たち公立は、例えば、全体的な保育のレベルをしっかりと底上げをしていくとか、今までどこもやったことがなかったような、例えば医療的ケア児といって、酸素吸入をしながら保育をしなければいけないという事例というのはまだ少ない状況なので、例えばそういったところはまず公立でしっかりとノウハウを積み上げて、これができるようになったら民間の皆さんに広げていく、まず公立がしっかりと今まで出来なかったことを受け入れていく。こういった公立の役割に特化するからこそ、費用が多少かかったとしても意味がある。それを全部に広げるのではなくて、川西市内5ヶ所、拠点というこども園をつくって、運営をしていきたいということでもあります。

現在、大体川西市内の保育施設の8割が民間の法人さんに運営していただいております。ですのでこういった役割分担の中で、今回この久代のこども園については、民間に委ねていくという思いを持っているとい

うことです。

しかしながら、「やっぱり心配だよ」とか「本当にそうなの」って言われる方もいらっしゃいます。原則、どういうふうになっているかということ、公立保育所も民間保育所も、保育士は同じ資格を所持しております。保育士の配置人数というのは、基本的に国のルールで、例えば、0歳児だったら、こども3人に対して保育士さん1人つけてくださいねというルールがあり、公立も民間も同じように守らなければいけない。保育の内容についても、保育所保育指針というものがあって、基本的なルールの中で、独自性を出してやっていただいているので、民間保育所が著しく悪いとか、著しく不適切ということは、基本的にはそういうものではないという考え方です。

保育料は、公立であっても私立であっても、3歳から5歳は無料、0歳児から2歳児の間は、所得の多い方は高い保育料を払っていただいて、所得が低い方は、保育料があまりかからない。これは公立施設に行こうが、川西南保育所に行こうが、民間のこども園に行こうが一緒です。また、ご意見もあると思いますけど、例えば制服代がかかるとか、こういった別途費用がかかるということは当然あるんですけども、基本的なところが大きく変わるものではないというのが、私たちの今、行政としての考え方です。

整備費の考え方が少しわからないというご意見を以前いただいたので、図にしてご説明をさせていただきたいと思います。こども園を建てたりするというのは全部市のお金で建てるわけじゃありません。国などからお金の支援をいただいてルールに基づいて行います。仮に新しいこども園を建てる費用が公立でも民間でも同じ値段だったとしてです。同じ値段で物を建てたときは、国からの費用は私たちが建てても民間が建てても一緒です。民間事業者が建てるときは、市は16%負担をして、民間の事業者さんが自分たちのお金で27%負担をしていただくというルールになってます。国が57%で、大部分国から出てきています。それが公立になったら、事業者負担27%が全て乗ってくる。ですから、民間施設であると市の負担が16%だったものが、公立で建てると43%になるので、市としての負担は2.6倍に上がる。同じ建物を建てたとして、公立と民間で市の負担額が違うということがまず1つ目です。

2つ目の運営費に関しても、これは市内の民間と公立認定こども園の平均額ですから、園によって多少違いますが、トータル1人当たり幾らぐらいかかったかという計算をしています。ですから、仮の数字とはなりませんけども、保護者の負担の部分、0歳、1歳、2歳は大体一緒です。国と県から負担をしていただくお金というのも、これは公立でも私立でも一緒です。ただですね、民間に出しているお金というのは、1人当たり1ヶ月で大体市は2.6万円ぐらい出しているものを、市が運営している場合は、1人当たり4.3万円出している。これがおおよそ1.6倍になる。これが私は無駄遣いと言っているのではなくて、市としてこの1.6倍を出すのであれば、民間が出来ないことをやる、公立としての役割を果たすということに、そういった施設に集約してこのお金を使っていく。ですから、一般的に数を増やして、待機児童を解消していくということは、民間の皆さんに担っていただく。私たちとしては、より効率的なほうを選びたいと思っております。

公立が担うべき役割というのは、川西の教育保育の大きな方針を考えて、かといって民間の保育所にこんなことをやりましょうというのに、公立が保育園こども園1園もありません、川西市には誰も保育に詳しい職員いませんというわけにいきませんので、現場での経験もある職員、そしてその現場で経験のある職員は、教育委員会の事務局にも来ますので、保育をどういうふうにしていくのかを考えていくということが、役割の1つ。先ほど言ったように福祉的な役割、他の民間園ではなかなか受け入れることが出来ない、そんなに数が多くないかもしれないけども、行政としてセーフティーネットとしてやらなければいけないというところが2つ目、我々がしっかり守っていくということです。3つ目は、民間施設が本当に多くなりましたので、公立がいい、民間がいいではなく、それぞれ違うことがありますので、お互いの違いを学び合って、一緒に研修をしたり、一緒に高め合っていく。お互いを知っていただくように、声をかけるのは公立だと思ってい

ます。公立が主導となり、一緒に研修しましょう、一緒に園を視察に行きましょう、こういったことをやっていくのが公立施設の役割だと思っています。

私たち行政としてはどういうことをするかというと、民間とともに研修を行ったり、巡回指導をしたり、あとは「こんな保育でいいんですか」とか、「こんなトラブルがあるんです」というご相談は、公立民間問わず、当然私たちのところには来ますので、教育保育課にしっかりと相談窓口を置いておくということです。

一方で、民間施設に対しては、兵庫県がこども園の管轄なんですけども、兵庫県と私たちで、もし、適切ではない不適切な事例があったら、私たちが監査を実施したり、弁護士を含むチームを作って、改善の勧告を出したり、こういったことをチームで対応していくというのが私たちの仕事として、これからもやっていきたいと思っています。いただいたご意見の中では、「幼児教育の内容が大丈夫なの」とか「費用負担についてどうなの」とか、「安定的な引継ぎをしてくれるの」というようなご意見もありましたので、前回と違う今回お持ちさせていただいた内容として、これから民間の事業者を募集するときの公募条件、「こういう条件で来てください」と言った条件の中に、120人から140人ぐらいの定員にしてくださいとか、例えば保育料以外の費用については取らないようにしてくださいとか、しっかりと引継ぎをしてくださいということを条件として、運営事業者を募集していく。あと幼児教育保育、この川西南保育所や久代幼稚園の良さというものが引き継がれていくのだろうかということについては、新しくなったこども園、そして保護者の皆さん、そして私たち川西市や教育委員会が入って、3者協議会というのを作りたいと思います。地域の方にも場合によってはしっかりと入っていただいて、「いや、こども園の幼児教育ももっとこうしたほうがいいんじゃないか」とか、「いやいやこれなんか実費負担少し高過ぎるんじゃないか」とか、こういったことをしっかりと議論できるような場所を作る。これも公募の条件として入れて、皆さんの不安を解消するようなこども園や民間法人を選んでいきたいと思っています。

場所の選定についても、ご意見をいただいたので少しお答えをさせていただきたいと思います。場所については私たちも悩みました。ベストな場所というのはなかなかありません。例えば「工事をどうしていくのか」とか、「アクセスをどうしていくのか」とか、「今空いてる土地がどこにあるのか」とか、いろんなことをこれは○、これは×ということを考えました。「現地で建てかえることは出来ないのか」、「久代小学校のグラウンドに建てることは出来ないのか」、「久代団地はどうだ」とか、「他に土地がないだろうか」ということを検討した上で、久代団地の跡地、ここから上がったところ、公民館の裏、横のところですね。そこに誘致をしていきたいと思っています。

なぜそのような結論になったかということ、まず、令和10年度の開設ができること、スピード感を持って「今困っている0歳、1歳、2歳がなかなか入りにくい」や「幼稚園は1学年が10人を切っている」、こういった状況をしっかりと解消していくためには、令和10年にしっかりと開設していきたいという私たちの思いがあります。

もう1つが、ここから離れるのかというご議論も当然あるんですが、予定地へ行ったとしても比較的バランスはそんなに悪くないと。これがJR北伊丹側に移転をするとすると少し話が変わってきますが、現在の場所であればこどもへの影響を最小限にとどめることができるということ。また、例えば現地建てかえにすると、方法としては違う場所に1回園舎を建てて、1回引っ越していただいて、壊して、建てて、もう1回戻すということになります。そうすると仮設園舎を建てるお金もかかりますし、2回引っ越しをしないといけないということもありますので、そういったことにならず、1回の引っ越しで済むだろうと。こういったことも含めて、ベストではないかもしれないですけど、より良い選択肢かなと思っています。これが今、久代団地の跡地がベストだろうと。久代小学校とかどうだろうかということもいろいろ検討しましたが、比較的良いだろうというふうに思っております。

ご意見を以前もいただいた、「ここの道が通れないんじゃないか」とか「道が狭いんじゃないか」ということもございましたので、誘致する際には市としてはここをしっかりと整備をするとともに、今、この土地、ため池なんですけど市の土地も入っております、これを売るときに道路をつくるということを条件に売る予定しておりますので、こちらからのアクセスは市がしっかりと責任を持って整備をするということで、できるだけ皆さんのご心配にはこたえていきたいなと思っています。

その中でも「やっぱり現地建て替えが出来ないのか」ということをいただきましたので、これも市として再度検討しました。どういうシミュレーションができるのかと。ただ、結論としては非常に難しいと考えています。仮に、令和10年に新しい園を開設しようとするとういうスケジュールを組まないといけないかという、解体と建設で1年では済まないと思います。1年半ぐらいかかります。1年半ぐらいかかるとなると、来年の下半期にはここをつぶさないといけないんです。そうすると、幼稚園、今通っている年長さん、来年の年長さんになる方と、来年入っていただく方というのは、必然的にもうこの場での園は運営は出来なくなるということです。もちろん仮設でどこかへ行くとかいうこともあるかもしれませんが、そんなお約束を園の方とはしておりませんので、強引に今の来年通う予定の方、そして再来年通いたいと思っている方たちを別の場所で運営をしていくということになります。これは私たちとしては、やはり約束をしていないことだし、望まないということになって、まず令和10年に新しい園を建てるということが不可能だという判断をしております。

現実的にこの幼稚園を最後までやったとしたらどうなるんだという、一般的に私たち幼稚園を閉鎖しようすると、令和9年、令和8年に入る方はもう入園の予定をしておりますけども、令和9年に入りたい方は来年3歳になられるんです。来年3歳になられる方っていうのは本来年少さんですから、久代幼稚園に入るのを待たなかったらもう令和8年には入園しておかないといけないんです。どこかの園に入園してそこで年中さんになるということですよね。ですので、令和9年の方たちも受入れないと行き場をなくす子どもたちが出てくる。ということは、令和9年も募集をして、令和9年で2年間、園を運営して、令和10年に園を閉じたら、そこから解体工事をして建設工事をしてという、13年になるということです。その間、こういった方たちに影響があるということと、この2年間少なくとも、3歳児、4歳児、5歳児の募集が出来ないということになります。ですから、保育所をそこで運営してる間、ここを工事するという状況に、幼稚園を建て壊してもう1回建てるということです。もちろん不可能ではないですけども、令和10年に久代団地に行くということと、令和13年度にここにもう1回建てて3年間待つということを比較した場合、今現実に、入所保留児といって0歳、1歳、2歳のなかなか入れないというこどもがいて、少人数での幼児教育を余儀なくされている状況がある中で、13年まで延ばすのではなく、より早い対応のほうが私は望ましいと思っております。皆さんからご意見をいただいたので、再度内部でも、どうしたらできるのかということを考えましたが、やはり結論としては、今の久代団地の跡地のほうがベターだろうと判断をしています。

今後のスケジュール、どういうことを考えているのかを最後にお話をさせていただきたいと思っております。これは急に決めたことではなくて、こども・若者未来計画というものを作成をして、令和5年度、令和6年度といろいろ議論をしてきて令和7年度からの第2期計画を作成しています。今後のスケジュールですけども、年が明けたら、どのような園に来て欲しいかということの募集要項というのを作成いたします。これに2〜3ヶ月ぐらいかけて、こういった募集要項にするので、事業者さん来てくださいという募集をするのが、令和8年の春先頃を予定しています。少し前後するかもしれませんが。事業者さんの募集をすると私たちに質問がたくさん来ます。こういうケースはどうなんですか、こんなときはどうなるんですかと言うことを色々と協議をして、手を挙げていただいた事業者を審査をし、おそらく秋頃に事業者が決定します。事業者が決定したら、令和9年度中に引継ぎをして、令和10年に新園をスタートをしていくということが、現時点で描

いている私たちのスケジュールだということです。

ここに至るまでたくさんのご意見が皆さんの中にあるというのは、十分承知をしております。そもそも民営化が反対だという方、民営化はやむを得ないけど場所がちょっとなあとという方、初めてそれ聞いたから、なるほどなどと言われる方ももしかしたらいるかもしれません。私はその全てがあっている、間違っているという意見ではなくて、それぞれ違いがあるからこそ、いろいろディスカッションをさせていただいて、より良い答えをしっかりと作っていきたいと思います。ですからここからはディスカッションになりますので、ご質問でもいいですし、ご意見でもお願いをしたいなと思います。大きな全体の考え方の部分は私、教育保育の内容は教育長がお話をさせていただくという役割分担もごございますけども、どうかよろしく願いいたします。

(事務局)

ご意見ご質問のある方。

(市民)

保護者代表させていただきます。よろしく申し上げます。

座ります。最初説明会第2回、前回された後に、もう1回説明会していただくっていうところで、やっぱり市長に話聞いて欲しいっていう意見を上げさせていただきまして、このような会でタウンミーティングということで、私たちの気持ちを聞いてくださる、思いを酌み取ってくださるという機会を設けていただいたことは大変感謝いたします。ありがとうございます。今回、タウンミーティングになって、いろいろ情報もネットや広報誌、出てきたんですけども、やっぱり老人の方は申込みも必要で、QRコード読み取ってみたいな、申込みの形と、あと電話で何回か部長にはそんなんでできる人いませんって言ったら、電話等でも構いませんっていうような感じだったんですけど、定員を設けるとか或いは大事な情報を話し合う場を市から発信される時に、もう本当に何か、意見を聞こうというような、その情報の発信の仕方じゃなくて一番最初の久代の幼稚園でタウンミーティング行われたとは思うんです。この計画の最終的に、そのとき、川西南保育所私、いましたけど、情報を出したって言われてるかもしれない大事なことを決めるにあたって、聞かされていないっていう思いがすごい強いです。

やっぱりこの大きな改革っていうか、子どもたちにとっても保護者にとってもやっぱり変わるっていうことはすごく負担のあることなので、川西市の情報の出し方っていうか、そういうところをちょっと検討していただかないと、やっぱり地域の高齢者の方も増えてますし、申込みの仕方であったりとか、或いはその関係者にどういうふうに声をかけていきながら、計画を進めていくのかっていうところで、やり方的にはちょっと、控え目というかあんまり意見欲しくないなあとというようなやり方で今まで来はったんちゃうかなという思いでいます。それについてはどうでしょうか。

(市長)

はい、ありがとうございます。2つあると思います。

1つはですね、なぜ受け付けやなんやらっていうのは、もう会場に入れるかどうかということだけですね。突然当日200人来るってなると、いや入れないじゃないかということになるので、場合によったら、すごく人数が多い場所に変えないといけないかもしれないし、二部制にしないといけないかもしれないし、資料も人数分用意しないとけないし、椅子の用意もということもあるので、一般的に当日参加していただいても当然大丈夫なんですけど、事前にご連絡をいただくほうが、私たちとしてはありがたいということで、そいう

うやり方をしております。ですのでぜひたくさんの方に来ていただきたいと思います。

情報発信の仕方について、私の立場で難しいのが、例えば私からですね、〇〇さん来てくださいねって、私が知り合いに声かけたらですね、特にタウンミーティングなんかそうなんですけど、何か市長が自分の応援団呼んでみたいじゃないですか。ですので、行政がタウンミーティングをする時は、一般的にできるだけ告知はさせていただくんですけど、個別に何とかさん、各種団体さん来てくださいねって言って送ると反対の思いを持たれる方もいらっしゃると思います。

これは事実としてあるので、できるだけ幅広く告知をしないといけないと思ってるので、例えばもっとういう方法があればいいんじゃないかっていうのは、実際に感じていただいたところを教えていただければと思うんですけど、そこはこれからずっと工夫はしていきたいなと思います。ただたくさんの方の声を聞きたいと思ってる、そこは私の思いとしてお伝えをさせていただきます。

(市民)

越田市長が市長になられたときに、何気ない日常に幸せを感じるまちづくりを実現するとか、あと子どもたちの成長を支えるためのまちづくりをする、あと子育て教育子どもたちに人生最高のスタートを与えるというような文章を見せていただいておりますので、やはり今回の内容にはちょっと、やはりそれにあまり合っていないんじゃないかなという個人的な感覚があります。

あと、令和10年に非常にこだわっておられるんですけど、先ほどご説明もありましたけれど、これ、私たちの感覚からするとその10年にどうしても間に合わないといけない0歳児とか1歳児、2歳児を入れてあげたいというご意見は分かるんですけど、ちょっと住民のご意見、特に公共の地域が5ヶ所に限定されてるということで、この久代がまるっきりそれに入らなかったということもちょっと何でだろうというような感覚がありますので、その辺のご意見をちょっとお聞きしたいです。

(市長)

越田のこども教育を大切にするという施策と合うのか合わないかというお話についてはですね、私は繰り返し、最初の冒頭になるかもしれませんが、これは、川西市のこどもとか子育て世代のためにやっているという政策だと思っています。今の課題というのは、やはり繰り返しになりますが、0歳児、1歳児、2歳児さんを受け入れることがやっぱり厳しいという状況で、ここに対してのSOSってのは私、頻繁に聞きます。幼稚園も少ない人数でやっているという状況があるので、そこをできるだけ早く解決していく。

一方で財源が限られておりますので、やはりそれをより効率的によりスピード感を持ってやろうと思うと、民間の力をお借りして広げていくほうが、よりスピード感を持って定員を拡大できる。ですからこども子育て世代を応援したいという思いの中で、私は今これをやっているということが、1点です。

もう1点が、公共施設、公立が5つに絞るという考え方を、そうしたら、久代はどうなるんだという、これもご意見等いただいておりますけども、イメージとしては、私たちはこの拠点園っていうのは、その地域に通う子どもたちだけの園というふうに位置付けているわけではありません。

南側を所管をする、担当をするというのは、加茂こども園と川西こども園になりますけど、「公立に来たかったらここに来てください」という意味で公立を用意しているということではなくて、久代の園も加茂の園も、拠点となるということは、もしものためのセーフティネットっていうのもありますけど、最大はそれぞれの民間園のネットワークの中心になるということなんです。

この辺が大体1園当たり20園ぐらいですかね、1園あたり、20園ぐらいを担当していくというバランスの中で、もちろん久代の方からすると、何で久代ちゃうねんということはあるとは思いますが、そこは

今現状、加茂にあるということで、久代の方は何かあったらそっちに通ったらええやんという保護者が通おうということのイメージというよりも、この拠点園っていうのは、そういう園のための園という役割をしっかりと持たないといけないので、それが5ヶ所ということです。これは久代に欲しいというご意見も当然わかります。ただ、そうするとですね。小学校区今14ございますので、14の公立施設をつくらないといけないということになります。これは当然私たちとしてはできる規模ではありませんので、5がいいのか、3がいいのか、7がいいのか、いろいろ議論があるんですが、今の園の数から見ると、5施設に絞っていききたいなという思いということです。ここは久代の方からは、そんな言わんとというご意見があるというのは当然だと思いますが、これが今の私たちの考えだということです。

令和10年ですね、繰り返しになりますけど、令和10年というのは1つは、当時令和4年度だったと思うんですけども、当時は公立幼稚園は清和台の幼稚園で廃園するとか、東谷が廃園するんじゃないかとか、そういった議論があった中で、やっぱりいつまでやるのかと、いつまでやってくれるんだっていうことは明示して欲しいっていうことが、確か意見として私はあったというふうに記憶をしています。

公立幼稚園で一定の人数に満たなければ次年度は園児募集を行わないというルールを当時決めており、そうすると保護者の方からすると、来年園があるのかわからないと、再来年あるのかわからないっていう、不安な気持ちになるんですということをいただいたのでこれは明確に期限を示す、令和9年度末までは、久代幼稚園は必ずやりますと。で、その次の方たちは、新しいこども園が出来るからこちらを目掛けて来てくださいということを確認することのほうが、いつ園ができるんだろう、いつまであるんだろうって不安に思われる保護者の気持ちよりも、明確にするほうがいいっていうこと。やっぱり最大のこだわってるのはそういうお話があるっていうことです。

(市民)

私ですねキセラの公園づくりなどはね、平成23年からですか、ずっと現在も、いろいろ関係持たれてやっています。提案だけなんですけど、幼稚園づくりも一般の方も交流するような、要するに幼稚園づくりっていうか人づくりとかそういうものをみんなで参加しながら、やるっちゃうことは出来ないでしょうかね。

キセラの公園づくりもですね、私今もうずっと、関係を持ってやっておるんですけど、先月の第2土曜日でしたかね。公園がいっぱいになるぐらいこどもさんがお見えになって、何をしたかっていうたら、体験するんですよ。それがね、みんなちっちゃい子やねん。

それから田植え選手権とか稲刈り選手権やってるんですけど、おむつしたぐらいの子まで来て田植えとか稲刈りやるんですよ。そういうことが体験できるのかな。できるようにして欲しいんですよ。ほんで今この久代の場合はあそこで野菜づくりが体験出来ますよね。

あそこ行ったときに本当にそんなできるのかな思う。というのはなぜかいうたら、将来絶対そういうものはね、体験っていうのはものすごく大事なんです。ただ物を教えるだけじゃない。体で覚えることなんです。そういうことが本当にできるのかな。今ここやったらできるんですよ。

それでもう1つはお金がかかるって話しやったんですけど、何か維新の会と一緒に考えじゃないかな思っています。あれは大阪やからできるんや、お金いるゆうたってほれ、私、去年一昨年までかな。2年前ぐらいまで地元でボランティアでずっといちじくの収穫を手伝わせたんです。朝から早く3時ごろからか。それが2年前ぐらいで、あそこ。これ中国道じゃなくて、あれ手前全部建物建ちましたね。あれだけでも市長、収入が大きいと思いますよ。お金がないじゃなくて反対に増えてるはずなんです。

だからそこらもちょっと考えていただいて、皆さんがここは何とか保って欲しいという、言うてるんですから。やっぱり将来こどもさんのことを考えて、何かそこら辺を、体験に関して僕はね幼稚園とかああいう

のは全然体験してないんですけど、会社に入ってね、自慢じゃないですけど、商品開発から設備開発のところもあり全部やったんですよ。とっても楽しかったですね。現在も楽しいです。野菜づくりも楽しいですよ。今年なんか白菜なんかでも、7キロぐらいの白菜ができるようになりましたんでね。とにかく、何ですかねそういういろんな体験ができるようなことは、していただきたいなと思いますね。

(市長)

はい。私今無所属ですので、それぞれの党の評価についてはちょっとご容赦をいただきたいと思うんですが、川西市の財政は、私が平成30年に就任したときには本当に厳しくて、予算組めないんじゃないかなって悩むぐらいの状況からスタートしたのが、令和6年度の決算は収支均衡少し黒字になったということです。

これから7年8年はちょっと厳しいんですけど、9年ぐらいになってくると税収が、物流センター誘致したりで増えてくるので、一定よくなってきていることは事実です。ただ、一方で、そのお金はいろんなことに使います。こどもの保育園、待機児童の話だけではなくて、例えば久代だったら、留守家庭児童育成クラブも、もう今入れないって状況になりますから、来年それを解消していくために、大体1億円ぐらいかけて多くの小学校に放課後キッズプレイスっていうのを作ったりとかしますんで、出てきたものは、別に私がポケットに入れたいわけではなくて、お金がしっかりと生み出されたら、子どもたちにしっかり返していきたい、子どもたちの教育環境とか、子育ての環境とかに返していくというのが基本的な状況です。ですので、お金があるなしに関わらず、同じことをするんだったら、同じ保育所を建てるんであったら、より効率的な方法を選択したいっていうのが、私の立場で私の考えです。おそらくどの党も同じものをするんだたらより効率的な、ということについては共感していただけたらと思っています。

もう1つ、最初にですね大切なことを言っていたいて、何かみんなでつくられへんかなみたいなお話、キセラの公園の例を出していただきましたけども、担当部署と調整してるわけでもありませんし、議会でも言っているわけではないんですけど、例えば、募集要項をつくりますとか、園を選びますって言ったとき、これから園舎が建ちますといったときに、保護者の方とか、子どもさんの意見が聞ける機会がないとか、みんな新しい園をつくる段階から参加しようとかっていうことは、地域の方も含めてですね、ご参加いただけるって状況だったとしたら、これは今までにない園ができると思います。私、いろんな園、私立の園もいっぱい見えています。直接現場に行っています。ある園では、幼稚園、年少さんのときから、糸鋸を持って、木を切ったり、年長さんだったら電鋸を使ってるんですよ。しっかりとそういった体験をさせたいとかっていうところもあります。

ですから、園で、その独自性、どういう体験をさせるのかというのは1つの正解があるわけではないので、その園と、保護者の皆さんと、行政とでしっかりと連携する機会を作ることによって、地域の方も出来たら入っていただいて、こういうことをしようよっていうような、園が作れたらいいと私は思っています。

(教育長)

久代幼稚園や川西南保育所が地域の方のご協力を得ながら体験的なことを実施しているというのは、認識しています。

ただ民間も今そういうことを教育委員会も通じてですけども、地域の小学校であるとか、地域の方々と交流するというのが、基本的にはそういうことを支援して進めていっているところですので、幼児期の体験みたいなものは、やはり新しい園になってもやっぱり引き続きやっぱり支援していただきたいし私たちも教育委員会として、応援していきたいなというふうに考えています。

(市民)

そもそも、私たちが言いたいのは、新しい園どころではなくて、この園残して欲しいです。

ここに集まってるんです。保護者それから地域。なんか今、方向がどんどんどんどんいい意見やったらくださいねみたいな感じになってますけど。今残ってる子らね、実際あと何年かしたら、違う園にいかないといけないっていう。今、親よりもね、長い時間過ごしてるんですよ、朝7時から夜7時まで。保護者はもう安心して預けている。

ところがどこに行くかわからへんような園に勝手に決められてっていう印象を持っていますわ。保護者も、地域も行かせられて、そこで新しいことを考えてくれって、そうこどもたちの気持ちも保護者の気持ちを無視してると思いませんか。正直ね、保護者たち怒ってますよ。地域も怒ってます。このやり方に。楽しい未来なんて描けない人がいるんですよ。こどものことを思うと、おいしいご飯もまずくなってしまう人がいるんです。こんな楽しい空気でも、私タウンミーティング出来ません。体験大事でしょう。でも今やってくれてるんです川西南保育所で精一杯。今あるものを潰すっていうのは、もっと重く受け止めて欲しいんですよ。

越田市長と夏祭りにお話しさせてもらったときに、ちょうど過渡期にあたる方っていうのは、どうしてもそういう思いにぶつかることがありますって言うてはりましたけど、そういう人たちの思いは、どうなるんですか。「ここに残りたい」、「最後までこの園で過ごしたい」、「ここを残して欲しい」、「ここを帰ってくる場所に欲しい」と思ってるこどもたちの気持ちってどうなるんですか。新しい園作って、綺麗な園作って、それで、よかったなって終われないですよ。潰すっていうことはね、やっぱりもう元に戻らへんっていうことでしょう。公立の役割があるってさっきおっしゃってましたけども、久代の人たちがね、その公立、求めたときに、どこに行けばいいんですか。遠い遠いところ、加茂やったり、川西やったり、そんなところに行けばいいんですか。

5つにするか、3つにするか、7つにするか。5つで決めました。誰が決めたんですか。私たちに相談してくれたんですか。以前タウンミーティング、もともとはここね、本当は隣とくっついて公立で運営するっていう話だったんじゃないですか。それがなんか、保護者の意見が出て、新しい施設にして欲しいから、お金がかかるから。ほんで民間にします。保護者の意見って誰なんですか。地域の意見って何なんですか。納得出来ないですよ。そう納得出来へん部分にどういうふうに思われてるんですか。どう考えておられるんですか。私たちはやっぱり、今まで聞いても、タウンミーティングもそう、説明会もそう。それから、パブリックコメントもそう。反対の意見出してきましたずっと。今回も何が変わったかなって。今の説明聞いたところ、3者協議をします。それぐらいしか変わってないんです。新しい園を誘致するときに、3者協議します。結局何か、あとはそっちでやってねみみたいなそんな感覚になるんですよ。今までそうやったから。話を聞いてくれる場っていうのがないし、言ったとて、話を聞き上げてくれなかったっていうのがあるから、私達はそういう思い。

(市長)

ありがとうございます。先ほどから申しあげましたが、私たちは課題を解決しないとイケないと。もちろん、今いらっしゃる方、ここはしっかりと引継ぎやそういったところをちゃんとしていきたい。ただ、このまま維持をするっていうことは、0歳、1歳、2歳の入れないこどもたち、ここに入れなかった人たちの声も我々は聞いています。ですからその課題はやっぱり解決していきたいという思いが1つあります。

幼稚園の子もそうです。10人にも満たないクラスの中で幼児教育をしているこの環境は変えなきゃいけないと思っております。それをするためには一体化して、こども園にしていく。

その運営は効率的にやっていくために、民間に任せる。もちろん反対のご意見ということもあるということとは当然承知をしておりますけど、これはどこか1つ、どこの意見をとってもですね、賛成の方もいれば、反対の方もいらっしゃいます。

ですので、反対の方にも徹底的にずっとこういった場所で、それは民営化反対の方からすると、民営化を止めない限り声を聞いてないという状況になるかもしれないですけど、民営化するけどもこういったことでの不安を解消して欲しいということを、対話をして進めていくというのがタウンミーティングの意味だと思います。ここで多数決を取って0か100かを決めるということではありません。最終的には誰が決めるんだということは、計画を作る責任者は私ですから、多くの賛成の意見も反対の意見も全て受け入れて、その上で私が1つの答えを作っていくということです。ですので、当然この民営化ということは、私の意見と私の答えとしては民営化するべきだと思っています。これは私の政治的信念として思っています。進め方、説明は、例えば令和5年はタウンミーティングをここでさせていただいたし、あとはコミュニティの方とかともお話をさせていただいている。もちろんこれを全市民が知っていたかということの内容に限らず、多くの内容について市民の皆さんに全部にお知らせをするというのは、広報誌などでお伝えはしてるつもりですけども、なかなか行き届いてないという、これは現状としてあると思っています。プロセスとして、急に決まったというよりも、4年度、5年度、6年度と段階的に、公立施設の役割って何なんだということを考えて、ここでもたくさんご意見いただきました。タウンミーティングも前回もたくさんの方にお越しをいただきましたので、一定しっかりとプロセスを私は踏んできているというふうに思っています。ただ、この方針に反対の方からすると、意見聞いてもらっていないと思われるという、これは理解をしています。

ただ、道路をどうしようであったりとか、3者協議会をして安心感を得ますとかっていうことは、皆さんの意見がなければ、そういったところに踏み込まなかったわけですから、皆さん方の意見、この場所が無駄かっていうと、民営化を止めるっていうことが目的、唯一の目的であればそれは達成しないかもしれませんが、より良い答えになる、よりよい選択肢を選んでいく上では、私は非常に役割を担っている、意味のある場所だと思っています。それはタウンミーティングも一緒です。パブリックコメントも全部一緒です。

(市民)

川西南保育所はとても縁のある場所で、こどもたち4人とも、13年間、お世話になりました。公立の保育所のよさは十分理解しているつもりです。それで前回、久代会館でミーティングに参加して思うところがありまして。やっぱり保護者の反対の意見、まず、久代団地跡地にもう選んでるっていうことで、やはり保育所に預けてる保護者の方は、ほぼJR北伊丹を利用したりとかしますんで、なかなかあそこの場所が利便性はいいんですね。やっぱり親としましては、なぜあんな遠い場所、ましてや交通の便も悪く、いわゆる保護者も保育所に児童を預けて、やっぱり逆行する場所になりますよね。久代団地の跡地ってというのが。そういったところでやっぱり反対の意見が多かったんですね。

そもそもやっぱり公立の保育所を残して欲しい。保育所が老朽化してるのであれば、新しくして欲しいとか、そういう意見もありましたので、やはり保護者の立場としてやっぱり反対意見も大きくなったので、そういった面で、やはりどこに持っていきかっていうところで、もっと、やっぱり保護者の意見も聞いて、決めていただきたいなと思います。

(市長)

ありがとうございます。場所については、こども園を建てるというと1,600~1,700平米ぐらいは必要となる。そのような土地は今日探して明日見つかるというものではない。私たちが対応できる場所を探したと

ころ、久代団地跡地は市が持っていますので、そこはすぐに提供することができます。で、場所がどうかというのは、例えば川西南保育所の保護者様の通っている住所なんかもプロットさせていただくと、上久代のほうの地域にお住まいの方がいらっしゃる。もちろん、ぐるっと回らなあかんとかいろんなルートそれぞれあると思うんですけど、必ずしも全員にとって不便かっていうと、場所が移転するっていうのは、便利になる方もいれば、不便になる方もいらっしゃるというのが、移転なのかなと思います。

現地建て替えをしようと思うと、先ほど言ったように、久代幼稚園を潰すか、先に潰すっていうことをしないといけない、もしくはそれをしないとすると、仮設が必要でこれも費用も本当に多くかかってくる。仮設をどこに建てるのか、これもまた場所を探すというのも大変な状況になりますので、あらゆる角度から全て考えて、100点満点というつもりはありません。ここがおかしい、こっちのほうがいいと言われる方もいらっしゃるというのはわかっていますが、相対的に令和10年に実現する可能性が一番高い場所というふうに選びました。ですのでこの場所についても、全員が賛成でないということは私も理解をしていますが、今の課題を解決するための、よりベターな方法というようにご理解いただきたいと思います。

(市民)

ちょっとお聞きしたいんです。子どもたちが成長する上において、一番大事なものはなんですか。教育長。何を大事として人を育ててはりますか。ちょっとそこをまず聞かしてください。

(教育長)

難しい質問なんで一言で答えられるかどうかわかりませんが、幼児教育保育において、大事な1つの要素として例えば体験であったりとか、人と人との関わりであったりとか、それからやっぱり子どもの主体性ですね自主性っていいですか、そこをやっぱり大事にしていくべきかなというふうには考えています。

(市民)

ありがとうございます。あのね、私はね、子どもが一番初めに学ぶ場所であり、同級生として学ぶ場所、それが保育所であったり、そういう子ども園であったりする場所だと思います。久代は空港問題がありますので、ちょっと話ずれますが、空港問題があつてちょっと子どもたちというか、人がね、一旦外へ出ました。空港問題が騒音がましになってからは、どんどん今この空いた土地をまた空港のほうで売りに出します。若い人たちが、おそらく増えてる。

そんな中で、当然、子どもたちで出来てくるでしょう。そんな中で一番初めに学ぶ場所、教育される場所。今言われてることだけでいいのかなと。まず抜けてると思うのは心。今、私コミュニティ25年以上運営委員の中におりますが、大変勉強不足で、最近になってわかったことなんです、今やっとな、若い人たちの声が本当に聞けるようになった。コミュニティとして。今までは残念ながら私20数年間コミュニティって、若い人の声がどんどん聞こえなくなった。特にPTAの、ほとんど小学校の解体にされてからはですね。コミュニティとしては、もうこれはこの先ないなと思いました。もはやコミュニティがなくなるなど、そんな中で、今、若い人の声がね。また、コミュニティとして聞こえ出した。それで、私なりに一生懸命考えまして、一番大事なのはこれから生まれて、育てていく中で、一番大事なところ、一番心を教えていただける、そういう教育をしてくれるところ、これってやっぱり民間では無理なんです。公立だからやれること、民間だからやれること、もちろんあります。今言われた民間でやれることは、今言われたように、頭でっかちなことは幾らでも民間をやります。しかし、心を育てるという意味では、これは民間でやれば、おそらく、事業として成り立ちませんよ。

市は、やはり子どもたち、将来これから育つ子どもたちの第一歩として、一番大事なことを教えてあげるのが、今のこの川西南保育所の所長さんであり、それができる環境にさせていただいている保育士の皆さんが子どもたちに、自分の思いを子どもたちがこれから将来小学校、中学校、高校、大学、社会人と育っていくための第一歩を一生懸命、心を持って教える。こういう教育はね、絶対民間では出来ないんですよ。その教育を市としては、やっぱり捨てて欲しくないし、今市としても、そういう3者加えてですね、民間と市と、いろいろ話合いをしながら、そういうふうな子どもたちの育成をされると言われてますけども、これはね、話もうできることではないんですよ。民間は絶対に赤字を出せない。市は多少の赤字が出て、大事なところ、人を育てるといふ大事なことに対しては、それをする事ができる。それが、公立であり、市のやれることなんですよ。そこを民間にやれと言うたって出来ませんよ。だから、一番初めのときに選択できる、保護者も子どもたちも、どちらを選択するか。頭でっかちになっているんなことを学べる所がいいのかな。或いは、やっぱり人として、人間として育ててくれる、そういう今の市のやってくださってるやり方。それはやっぱり選択できるようにしてあげて欲しいなと思います。

(教育長)

ご意見ありがとうございます。川西南保育所の実践とか、久代幼稚園のそういう実践、私も見学に来させていただいて、職員、園所長も含めて職員が取り組んでるところを評価させていただいてありがたいかなと思っています。一方ではそしたら民間はそういうことをしてないのかというのはそれは私は意見が違います。民間もいろいろ工夫されている体験もされてますし、今多くの子どもたち、小学校に上がる子どもたちの多くは民間にお世話になっていますが、心が育ってないと別に思っておりませんし、それなりのやっぱりそれぞれの経験、特徴を出した経験を出されているというふうに思っています。

民間園との公立園との研修であるとか、会議であるというのはいまものすごく頻繁にするようになって、民間も民間で努力されているところもある。公立も公立で努力しているところもあり、課題もある。それをお互いに共有していくことが一番大事なことだというふうに思っていますので、民間だから心が育っていないとか、頭でっかちであるとか、そういうことは私自身は思っておりません。はい。以上です。

(市長)

追加すると私は、子ども2人とも私立ですが、地域に本当に根差してやっていただけてますし、伸び伸びやっていますよ。ですので繰り返しになりますが優劣はないと私も思っています。仮にです、仮に優劣があったとしたら、それは今まで公立保育所が機能してなかったってことです。

公立保育所、公立の仕事っていうのは自分の目の前の子どもを育てることだけじゃなくて、地域全体の保育の質とか、そういったものをしっかりコミットしていくところに意味があるんです。ですが私はしっかりと今、一緒に研修をしたりしてくれているので、公立保育園の保育士たちはその役割を担っていただいていると思っています。公立保育所の保育士の仕事は、目の前の子どもたちだけを育てるということではなく、地域全体の保育の質にコミットする責任がある。だから公務員としての意味があるんです。

ということを考えて、14つ作るのか7つ作るということではなく、5施設という形で絞って、公立も民間もいいところを取り合っていく。見に行くと、民間のいいところ、民間の方がここはいいなというところもあるんです。そういったところで、公立も民間も、一緒によくならないといけないと思っています。公立を本当に評価していただいているのは、私は嬉しいんですけど、私は公立の責任者でもあるし、民間に委託をしているという責任者でもあります。もちろん、民間ですから、経営をしっかりとしなないといけません、その費用というのは、無理やり徴収してということより、1人当たりの費用というものが算定をされる中で、

十分経営に値するだけの費用を委託料という形で私たちが出しています。公立とか民間とかではなく、基本的に経営が成り立つ計算で国が算定をしてきているものに基づいて、我々がお金を出しているということです。ご心配の点はよくわかりますが「民間が」と言われると、わかりましたというわけにはいきません。

(市民)

はい。私のちょっと言い方が悪かった。民間が悪いとか、どうこう言うてるわけではない。

民間には民間の良さがあります。ただし、民間では出来ないという大事な部分が、公立にもあるということが言いたかった。それと、一番、私が今お聞きしてるのは、この場でここを残して欲しいというのは、やっぱり保護者のほとんどの方々、通ってる皆さんがこの場所が良いとさっき言われました。利便性も、久代としても中心になって、久代の中心になってる部分に、一番初めて学ぶ場所がここにあるということが、非常に大事であるということが一番言いたいところなんです。その中でも、ここで教育を受けてるこどもたちが非常に保育士さんを含め、一生懸命そのこどもたちに対して心ある教育を、こども一人ひとりにやってるということをお聞きしたり見たり、保護者の方も聞いたりしてます。

だからその良さも踏まえて今ちょっとこのこどもとして育てるのはどうかなと言っただけで。ここへきてるのは、この場所の中心を残して欲しい。久代として。

だから、他もそらね5ヶ所あるからわかりますけど、久代は格別な思いがあるということをお先ほど空港のことも言いましたけど、そういう思いがあるんです。

ここを糧に中心に、育てていきたい。コミュニティも含めて。そういう願いがあるので、ここを見捨てるわけにはいかない。そのために、私は今日来ましたし、どうしてもやっぱりこの場所を残し、公立の保育園を運営していただけたらという気持ちで参りました。

(市民)

先ほどからずっと市長とか、市の考えを聞いてると、私のおるところの組織でもおんなじようなことをやっておられて、何ていうのかな。非常に憤っておるといふか、ここでも同じことをやってるのかと。そこに出てますお金の話をずっとされてます。要は、個々の意見というよりは、市の財政を何とかしたい。

自分らミーティングをやりました。市民の意見聞きました。言うておられますけれど、ただやりました。段階を踏みました。ですんで10年度にやります。という、その段取りを踏んでる段階で、その中に私たちの意見だったり、ここの地元の先ほど言われた意見だったり、どんだけ入ってんのかな。どんだけ聞いてくれてんのかな。非常に不安なんです。

僕なんかでもさっきもいろんな案出されてましたけど、ベストなんはここを潰して例えば仮校舎をとった後でもいいですわ。久代小とかどっかに仮に建てる。そこには2年間でも通っていただくことにはなるんでしょうけれど、そこにその2年間だけはすいません、そこに当たる人はそこへ行ってくださいと。その代わり2年経ったらここへ新しい素晴らしい建物が建ちます。

それであれば、辛抱してもらえないじゃないですか。さっきの方が言うたように、ここにあるから、いいんだという意見がある中で、その考えは市長はないですか。お金がかかるんやという、お金がかかるし、プロセスが大変だ。そんなん100も承知です。飛行機のお金あるでしょ。年間何億入ってますねん。そのお金をこういうときに使って欲しい。

(市長)

私は、お金の話は大事だと思っています。私の仕事は、皆さんから預かった税金を、一番効率的と思われ

る方法で、一番効果的に使うということです。ですのでお金の話をするなどというのは、市長とか行政いらな  
いってということだと私は思います。預かったお金をより効率的に使うのが私の使命です。そこはお考えが間  
違ってるとは思いませんけど、市長というのは、それをするのが仕事だと思っています。ですので、建て替  
える、仮設校舎を建てるというのは、他に選択肢がない場合に限られると思っています。この周り探したけ  
どもほかにはないといったときは、一時的に例えば小学校に建てさせていただく。川西こども園のときはそう  
いう形でしました。川西北こども園の時も隣でしたので、北幼稚園が隣の学校の中に入ってということもし  
ました。他にないときには現地建てかえということにはします。新しく土地を買わなければいけないことに比  
べれば、現地建てかえのほうがいいとかっていう計算をしますが、今回は幸いに近くに土地があるというこ  
とですので、あえて仮設校舎を作るということをしなくても、スピード感を持って対応できると判断してい  
るということです。ここに残して欲しいというお気持ちは、よくよく理解しているからこそ、先ほどの図、  
シミュレーションを再度させていただいたんです。ですから、やるのが大変だからやらないんじゃないんで  
す。

例えばですね、久代幼稚園を突然来年やっぱり閉めますと言ってやるべきなのか。13年度まで一体化を先  
送りをして、その間、1号認定を増やさずに、1号認定の方がここで数人で保育を受け、3号認定0歳、1歳、  
2歳の方が入りにくいという状況を、13年まで先延ばしをするのかという判断の中で、10年にやったほうが  
より良いと。もちろんここにあったほうがいいところに、空いてる土地があって建てたら、それが一番いい  
でしょう。だけど、この隣には土地はないんですよね。なので、よりましな選択肢より比較をした中で、10  
年度に民間園として移管をしていくということが、あらゆる条件を加味して、一番点数が高いんじゃないか  
とご提案をしているという状況です。地域の方が「ここに残して欲しい」、保護者の方が「ここで公立  
でいて欲しい」、その意見も知っていますし、たくさんご意見もいただいています。そこについて無視をしてい  
るということもない。ただ、一番いい選択肢として、今年に入れなかったというこどもたちの保護者の声と  
かも聞くと、10年をめざしていくべきだと思っているということです。

(市民)

場所の選定なんですけども、今おっしゃってる新しい選定場所の道路に消防署もあって、道路があるんで  
すけども、それは今こちらが久代小学校の通るところは、スクールゾーンなんて7時半から8時半まで通行  
止めになってます。そういった面から、送迎面とか今言ってるスクールゾーンの回り道として、今度の新しい  
場所が皆さんの会社に勤める場合、そこを通行する人とか、例えば加茂のほうから来て、抜け道として南  
中学校の前を通過して、下のミツワところの信号まで通るといふ方が大変多うございます。近くに楽天の物流  
センターもあります。その大きな10トントラックというのは通ったりします。

そういった面からしまして、今度送迎とかする場合のリスクというのは、多少やないんですけどもあると  
思います。自転車で行った時に、今の道でしたら10トントラックが通っても、すれ違いざまでもなかなか厳  
しいようなところもありますんで、そういった交通面での被害というとおかしいけども、リスクはものすご  
いあるんじゃないかと思えます。

例えば、南中学校の角に信号機をつけるとか、そういった面もどのぐらいの交通量があって、朝夕、車が  
往来してるんだとかそういったことは検討されたんでしょうか。

(市長)

ありがとうございます。交通についてご不安があるとか、ここが危ないんじゃないか、というような具体  
的なところはぜひご意見としていただきたいと思います。その場所にしますと言ったところの段階です

ので、信号機をつける交渉をしていますという、そういったお話はまだございませんが、場所をそこにするのであれば、交通量調査まではしてないですけども、もしここが多いよというご意見があったり、例えばここ危ないとか、止まれとか出来へんかということは、地域の方などと協議をして、決めていたり、改善をしていく事項だと思っています。

(市民)

このような機会をいただいて本当にありがたいなと思うんですけども、私のこの関係で言うのですね、やっぱり日本の学校でこの16年間ぐらいここで住んでて本当にいいなと思った場所。1回も悪い気持ちがないように感じ、ずっとここに住んで、国にメリットあるところ、自分で入れたからルール守ってしっかりいくところの中です。2人の子どももこの川西南保育所で保育を受けて、いい気持ちでしっかり今の小学校いってる中で、今度保育所がなくなるよがちょっと悲しくて今回、参加したんですけども、川西南保育所に入れなくて子どもが1年間、民間の保育も行ったことがあって、その経験も考えると、民間のいいところも絶対あると思うんですけど厳しくいろんなこと教える教育は。

こどものときにしっかり教えてたから子どもが大きくなって、自分のしっかりいい子になって国にメリットあるところ、一番はルール守って周りにも助けられながら、というところが本当に学んだところ。自分の中で残ったのが10年前で、この最初の1年間、1歳のときのこどもの先生がしっかり教えたこの先生も今も覚えてます。これが忘れないこと、これ先生が教えたから、自分の子にこのようにしっかりルール、教えて学んだところが重要ななと思って、民間も公立も経験したところから言うとやっぱり、公立のほうがさらにメリット。民間が悪いとか言ってない。いいところが絶対あると思うんですけども、公立のほうがさらに意義があった。経験した親として、残したら一番助かるなと思ってます。

公立が残ると、やっぱりこの学校で子どもが勉強してさらにいろんな10年後、20年後もいいなと思う。久代を残して欲しいなという気持ちが、再確認がチャンスあればまだ考えて、この場所がいいよとかいえるような、今も言ってるんですけども、さらに、残したい気持ちがあるので、本当にありがとうございます。よろしくお願いします。

(市長)

ご意見、ご回答がいるとかではないですか？

(市民)

こんな感じの気持ちもあるよとか、自分が行ってるから大事じゃなくて、本当にこの感謝が残したいところ。これ好きな方に、他の方がこの町が選ぶときは、この理由があるから、この場所であるから、これは育ちやすい、この関係がいいよところが、いいなと思ってるとか。本当にはお世話になってます。ありがとうございます。

(市民)

まず、保護者として、ほぼ全員が反対、残して欲しいと思っています。川西南保育所。今の資料の中に、久代幼稚園はいろいろ書いてあるんです川西南保育所、あんまり書いてないかと。ここでの建てかえというのを考えたときについていうので久代幼稚園を解体、南保育所は。

(市長)

川西南保育所のほうは、一部土砂災害の警戒区域に入っています。ルール上、建てられないことはないですけれども、できれば新しく建てるところは、そこはやめたほうがいいだろうというのが1つあります。

保育園で建てるとなると、幼稚園でも一緒ですけど、選択肢は1つしかありません。保育園を潰して何とかしようと思うと仮設校舎を建てないといけないということです。

(市民)

そんなことない。

(市長)

仮設校舎を建てずにできるんですか。

(市民)

できるんじゃないですか

(市長)

保育園ですよ。

(市民)

建物今2つあるじゃないですか。久代幼稚園用地と南保育所の2つがあるので

(市長)

保育所はどこに行くんですか？

(市民)

幼稚園が余ってる教室

(市長)

保育所そこに全員入れるんですか。保育所というのは基準があって、幼稚園は3歳、4歳、5歳を対象にしている施設なので、基本的に1歳、2歳の子を入れる状況になっていません。給食の施設もありません。ですから、ここで保育所をするというのは基本的にはないです。保育所は給食施設が必要ですが、ここは給食施設はありません。繰り返しになりますけれども、あらゆる選択肢があり、お金がいくらでもあって、ここに残すことが最大の目的だということであれば当然いろんな方法はあるんです。ここに残すということは、残せたほうがいいとは思いますが、私の目的の一番は、0歳、1歳、2歳の保育所に入れたい状況をしっかりと解消して定員を増やしていくということ、幼稚園の少人数のところを解消して、1号認定の幼児教育保育の環境を作ること、それを令和10年にやるということです。その目的を実行する最大の手段として久代団地に行くというのがいいということです。

13年でいいという判断だったら、幼稚園廃園になるのを待つとか、そうしたことも、それは不可能ではないです。ただ、保育所の方が幼稚園に来るとするのは、それはルール上も不可能だと思います。

(市民)

ちょっとお聞きしたいのは、今、加茂こども園ですね。あちらの方は人数が足りなくてだいぶ余裕があるというお話は聞いてるんですけど。そういう意味で、ここの久代幼稚園の今、園児を向こうに移転していただいてここを取り壊して保育所に建てかえるという考えは無理ですか。

(市長)

繰り返しになりますが、解体から作るとなると1年半かかるので、来年入ってくる子はもう事実上、加茂こども園の子だということです。幼稚園の方は2年ですので、来年入る方は最後までいらっしゃいますから、反対の声っていうのはなかなかないんだと思います。ただ、そのために、約束もしていない場所に「ここでこども園作るから、久代幼稚園で約束したけど、うちの都合であなたは2年間加茂こども園に行ってください」というのは、それはさすがに私はするべきじゃないと思います。

(市民)

そしたら、地域の声とかね、保護者の声ってどうやって反映してくれるんですか。  
どうやって反映してくれるんですか。今こうやって言ってるの、タウンミーティングってのは私たちの声。もう結局そうなんです。何もやってくれへん感じですか。

(市長)

賛成か反対かと言ったところについては、民営化マルかバツかを、ここで問いますという場所ではないということです。タウンミーティングは、私が民営化を進めているということについて、皆さんからご意見をいただいているということですから、もちろん皆さんが答えを変えて欲しいということで、私は「そうか、なるほど、これは民営化はあかんわ」という状況だったら全く変えないかという、そうではないですけども、こうやってキャッチボールをさせていただいている中で、私はやっぱり今のご意見なんかも含めて、民営化を進めるべきだと思っているということですから、それでマルがバツになるかという、それはマルをバツにするための会ではないということです。

ただ、それを進めていくために、先ほど言っていたとおり、交通のこととか、ここの保育園のいいところとか、「じゃあ幼稚園をここでやったらいいんじゃないの」って言ったときに、幼稚園をやろうと思ったらこんな課題があるんだっていうことは、共有していただいた上で、私が最後、決定をしていくという、そのプロセスの場所だということですね。

(市民)

そしたら、もう反対意見をここで何ぼ言ったって、聞く耳持たへんし、それで進んでいくという話ですか。

(市長)

聞く耳持たないという評価がどうかわかりませんが、保育園は保護者だけで運営しているわけではないから、賛否はそれぞれあるんです。賛否がそれぞれある問題は、賛成の意見を聞けば、反対の方からすると、私たちの反対の声は聞いてくれへんってなりますし、それは反対の場合もそれはあるわけです。皆さんのご意見をいただいた上で、最後私が判断して決定をするということです。

(市民)

保育所としては署名活動をしたんです。保育所65家庭、84名いるうち98%、1家庭だけ回答出来ない

いうふうに受けたんですけども、全員がこの廃園に対しては、反対するっていう意見で聞いているんですね。

私その保護者の代表としては、やっぱりその意見を酌み取ってくれないっていうのはいかがなものかなとは思いますが、やっぱり声が小さいですか。久代の声って小さいですか。これだけ地域の人も来ていただいて、ここに残して欲しいって言って、保護者たちも98%、1人出てませんが、そういう状況であるっていうことを無視されるというかも僕らの信念と、ポリシーっていうかそういうのをね、突き進んでいくっていう回答で間違いないですか。

(市長)

そうですね。繰り返しになりますけど、保育園をどうするかについては、もちろん残して欲しいという声もあります。ただ、久代の声が大きくとか小さいとか関係なく、大きい声であっても聞かないことはあるし、小さい声であっても聞かなくてはいけないことがあるのが政治です。これが行政です。大きい小さいで判断はしません。ただ、0歳、1歳、2歳で希望のところに入れなかったという、そういった声もございます。それは、1日も早く解消しないとイケない。一方で行政の責任者として財布も預かっています。より効率的にやらなければいけない。こういったことを考えたときに、反対の意見も当然、これはもう最初から計画したときから反対のご意見があるということは、当然覚悟はしています。ただそれも覚悟した上で、賛否の話については、私はこれはやると判断して、決断をして、この場所に臨んでご説明を申し上げているということです。

(市民)

賛否があって、反対してるっていうことに対して、何回も言いますと小さい声大きい声にとらわれないって言いますが、やっぱり久代って特別な地域じゃないですか。

さっきの空港問題のことにしても、やっぱり市に対しては貢献してると思うんです。

そういうことありませんか。地域で子どもを守っていききたい、そういう地域性を生かしてというか、地域で子どもたちを育てていききたいという、この久代コミュニティであったり保護者であったり、この地域に住む人間たちの思いっていうのを無視して、やっぱり建ててもらおうと困るんですけど。それについては。

(市長)

久代の地域に限らず、14小学校区ありますので全ての地域平等に大切です。どこだけ特別大切とか思いません。全ての地域全ての住民に対し私は責任を持っていますから、全ての住民が、私にとって大切な市民です、というのが前提です。

貢献というのは多分、航空機燃料譲与税だと思うんですけど、航空機燃料譲与税は、使途が決まっておりますので、保育所を建てたり、そういったところには充当出来ない。あくまでインフラ整備等に充当をしているというのが使い道なんです。それをもって貢献というんですね、例えば地域によって固定資産税が入っている地域と入っていない地域で計算して、固定資産税がたくさん入っている地域は手厚くするのかという、そういうことではありません。

その地域その地域で課題がありますので、地域の課題と、市全体の課題というものをしっかりとバランスを取った上で、今、南中学校の地域は、入所保留児が多い地域ですから、それを解消しようと思うと、この方法がベターだと思っているということです。

(市民)

今の意見を聞いてると、ポリシーとしてやりたいなという市長の意見は十分理解出来ました。

これ以上言うと余計に意固地なるんで、ちょっとここでは止めますけども。教育長もみんなご存じだと思いますけども、私も説明会の際に、説明させてもらいましたけども、この地域は今ちょいちょい出てますけども、航空機騒音被害で、住民が出ていった土地。これは44年から59年、15年間もかかって大阪高裁行って、最後は最高裁まで行って、国を相手取って初めて裁判を行った地域です。それで、やっと和解をして、もう全然やってきた和解ということで、騒音も7時から9時というのをきっちりと守っていただいております。

そしてまた我々もまだ、いまだに、国のほうに年に2回ほど陳情というか要望に行って、今までこうして守ってきた土地なんです。そして今ちょっと出ましたけども、それがやっと移転跡地、非常に移転跡地というのは昔もうご存じの方がたくさんいると思いますけれども、フェンスは今90センチですけども、1メートル80から2メートル10あったんですよ。

そうすると、非常に檻の中におるようで、非常にこれは、景観も悪いと。あんだけ200何ぼと違う、皆2メートル10で囲まれて、これはちょっと檻の中においてみたいなのかということで、久代だけでしたらあんな大きな、それであと国を動かして、市のお金は一切使っておりません。国のお金でフェンスを90センチにしてもらった。そういうふうにして地域で作ってきた地域です。

それで、プロペラ公園の中の市街地にある今、芝公園として非常に活躍していただいておりますけども、これも住民の方が、こちらのほうですが、保育者の方が地域の方が腰まであった雑草を皆、刈り取って、そして緑地対応するために、県の一定のお金を取って、2年がかりで予算を取って、10センチ㎡の芝を住民の手で全部はった。

2年かかった。これも県のお金でさしてもらっております。そして今非常にここの幼稚園の方や保育所の方が利用もされております。そういうふうに自分たちで守ってきた。こういう土地なんです。そして、今、私は言うてるのは初めてタウンミーティングがいうものであった説明会に、先月ですか10月にあったのを初めて出してもらいましたけれども、非常に保護者の方全員がこんなんじゃなかった。もっとひどい反対の意見が出て、えらいパワーやなあ、実際思ったんですよ。これは裁判以上の同じぐらいの活動になってる。それはひどいなひどいねと。すごいパワーやなという思いはありました。

そして今日のタウンミーティングですよ。僕、聞きたいねんけども、いろいろ説明をしてきましたと前も言うたんですけど言うてきたけども、地域に説明は1個もないで。こないだ言うたんは、初めて、私も聞いたん初めてです。私も役所にちょっとおりますけれども、聞いたんは教育長もご存じの通り、話したことあるけど、ここは一体化をして、一応やっていきたいねという案は知ってた。

そして向こうへ移るといのは全然、私も知らなかった。ほいじゃこないだ初めて、噂には聞いてたけども、そんなことはないやろうという思いでおったけども、いったら実際に移るということになったその説明を、前も言うたけど地域にしたか、っていうのは、地域、地域はどこやねん。何を指して地域と言うてねというのは、いや保護者にこれ見たら10人とか、13人とかにしたいうて載ってるけども、10人や13人ぐらいで、これをタウンミーティングといえるかと私は思ってるんですよ。

要はタウンミーティングはもっと前からこんなもん4年からやってるねんやろ。それがなんで今頃、7年に説明があるの12月に。それおかしいやん。それは久代小学校で参加したけど3人とか、みんな9人とか参加者や。これは全然コミュニティでは話が出てないよ。こんな会合もたれてないやん。タウンミーティング。

そういう中で、淡々と市長も思いは分かるけども、淡々と進めていくというのは、これは非常に、不思議に思う。要はタウンミーティングというのは、みんなの意見を聞いて、それから市が行政として立案をして、

こういうふうに進めていこうと。そういうためにタウンミーティングやら、ワークショップをやるんでしょ。それをなぜこないしてやって、私これ2回目ですよ。長いこと携わってるけど、それでやりましたやりましたと言われても、今後、これは保護者の方も納得いかないと思いますわ。聞きたいけども、そしたら、タウンミーティングと説明会とはどう違うの。

(市長)

ありがとうございます。まずですね、久代の皆さんが過去、長年闘争されてきた歴史というのは、よく知っておりますし、特に市長としては久代の皆さんの思っているのは、特に騒音の問題については、南部協の皆さん中心に、阪神間、違う意見の首長多いですけども、私は最後まで地元と寄り添うと決めて活動しております。私は全市対象ですので、久代の方が一番思いを持っているんだということはなかなか言えませんが、久代の方が久代への強い思いを持っているというのは、わかっておるつもりです。

特にまちが変わって移転を余儀なくされてきたという歴史がございますので、ここから離れていくということに対して、私たちが思う以上の思いを抱く、あの時とまた同じなのかと思いを抱くということを改めて、皆さんとお話をする中で感じているというところです。

タウンミーティングと説明会が具体的にどう違うかという、私が来るとタウンミーティングと位置付けているというのが一番の違いかと思えます。当然私たちは白紙で来るわけじゃありませんので、私たちとして思いを持って、こういったことをやりたいということを説明をさせていただいて、ご意見をいただく。先ほどから意見全く聞かないじゃないかというご意見もあるんですけど、いただいた意見の中で、これは採用できる、これは採用出来ない、これは少ししんどいけど、ちょっと頑張って採用しようかということ、考えて決めていくということが、タウンミーティングの意味であります。強いて言うと説明会は、今までのプロセス、経緯とかを説明するぐらいが主で、タウンミーティングになると今後の考え方も含めて、幅広くご意見をいただくということです。

地域との説明会は、主にコミュニティ推進協議会を対象にご説明をしてきたというふうに報告を受けていて、令和5年度もコミュニティの方には久代会館で説明会をさせていただいたと聞いています。説明会ですので、タウンミーティングみたいに広報誌に載ってないということはあったかもしれませんが、私たちとしてはそういう思いでやっている。ただ淡々とやるというよりも、私は熱意を持って皆さんとぶつかり合いながらも前に進め、いろいろな意見を聞いてやりたいと思っています。

(市民)

それが非常に間違いで、今、コミュニティの関係もようけきてるけども、コミュニティであったんかと、実は聞いた。私もずっとコミュニティ関わったけど、2年だけちょっと抜けたことがあって、その時にやったんかときいたけど、いやいや説明に来たけど、もうそんな、そんな記憶もないというのがほとんどですわ。

ただ、こういうのはやりたい10年廃止したい、そんな話は聞いたということやけども、それをもって淡々とやってるという、18人、7人とか、こんなもんがタウンミーティングであるか。市長が言われたとおり、タウンミーティングというのは、要はみんなの意見を言われた通り、みんなの意見を聞いてこれから行政に乗ってっていこうと。

説明会というのは、大体決まって説明しましょうと、いうことやって、それからこの間の説明会にきたんや。これはおかしいじゃないかということでタウンミーティングに今日は変わった。ということは1から始まったわけや。私は思ってるねん。タウンミーティングにあんたら変えたんやな。説明会をタウンミーティ

ングに変えたんでしょう今日は。それで俺は今日から始まってその意見を聞いて取上げていくのが行政だと思うねん。

それを今まで意見を地域社会では一番、市長が言うてたように、私は行政のお金を預かってる、それを有効に使っていかないかんということ。そこまで言うのであれば、幼稚園とか保育所は設置条例がありますよね。その設置条例というのは、タウンミーティングにおいて、その市民のお金を使っているから、十分に説明を行って進めていくというふうになってるんや。それを、1回か2回して私らの意見は言ってもないんだということ言うてたけども、全然聞いてないということは全然解消されてないし、私は今日から始まったから今日からタウンミーティングだと思ってる。タウンミーティングは今日から。行政の判断が始まって今までのやつは白紙でこれから議論をしていくでという話や。私はそういうふうに理解してる。

それを令和10年やるとかいうのは非常におかしい話であって10年で改善せないかんとか、それは前に言うてた？言うてないでしょ。言うたんは、5年か6年ぐらいから言い出したよ。そんなんを、こどもの未来のために進めていく行政が、そんな1年ぐらいで、あそこに場所として、非常にあそこにこだわって言うてるけども、あれも偶然出来たから、あそこへ持っていこうという発想しか私はとってない。そこへ理論づけをしていってあそこへ持っていこうとしてるわけであって、本当にそこへ持っていこうという意見と、ここで残してくれという意見とは全然違ってくるわけや。ここへ残してくれというのは我々はそういうまちづくりをしてきて思いがあるから、ここは1つの子育ての拠点として、非常に思いを持ってきている人もおるし、私があそこの小学校でてん、あそこの幼稚園出たという人が保護者になってるわ。

それを今度あそこ空いたから偶然そこへ持っていこうかと。そんなことを5年と6年で1年ぐらいで考えられて、まちづくりを進めていったら、今までまちづくりを一緒にともにやってきたと、市長と確かに市からもらってるよ十分知ってます。そのためにやってきたのにそれをなしに、初めて私聞くというのは、非常に憤慨してる。正直。それでこれを10年にするねんと、何で10年にこだわりと概要聞いたから分かるけども、それはその必要はないと思うわ。

これ保護者、年度見たところで、わーっと言って文句言う人はそんなにおらんと思う。これ賛成の意見も、反対の意見も聞いてると言うけども、保護者のほうをよく知ってるんだけど保護者の全員は反対ですわ。こんな珍しい。

それを、いや賛成の意見もあるんやけどそれは詭弁であって、この久代に対しては通用しないわ。正直私はその川西南保育所を残していただいて、これから復興していきだろ、10年には建っていくだろと。新しい土地が売られて、そのシンボルとして、ここは残してもらわんと。今度は町がまた戻ってきたのに、一番拠点を向こうへ持っていくという、どういうことやと私は思う。教育長十分知ってるはずや。教育長はそういうふうに思うよそれ。

教育長も市長もどうもおかしい。それはシンボルとして残したろと思うのであればその議論としてなんぼでも方法がある。例えば今思いついただけやけど、私が思うのも、勉強してはるからよう分かるやろうけども、幼稚園の3人や4人で2部屋。幼稚園のあれを皆小学校に、2や3つほど空き地あるからそこへ幼稚園を持って行って、4人か5人の幼稚園としてやっていったら、あそこは潰せるわけや。そしたらあそこへ南保育所を建てて、ほいで戻していくという考え。やろうとするのであれば、その考えであれば、できる方法は何ぼでもあると思う。その方法をこれからタウンミーティング、今日から始まってんから持って行って、ほんでみんな無理なら13年でもええやん、いや保護者に聞いてみて、13年でもええかと、多分ええと思うわ。延ばしたってどうってことあれへん、これここへ残して欲しいというのであれば、それを取り入れていったのが行政やと私は思う、その辺どうですか。

(市長)

ありがとうございます。タウンミーティングですけど、説明会のときに、ご意見としていただいたのは、議事録は全部私も読みましたけど、この思いとか熱があるということ、私や教育長も含めて聞く場をつくって欲しいと、その上で来て欲しいということもあったので、再度、どういった趣旨でこれをやろうとしているのかということ、私が説明をするということで、白紙になって私が来たわけではないです。令和6年度の3月末にプロセスを経て策定した第2期こども・若者未来計画の中で、民間法人による整備運営、整備場所は市営久代団地跡地ということ、計画として書いているわけですので、それを前提にお話をしないと「これがゼロになった」というのは、計画そのものが白紙ということになりますから、それは出来ない。ですので、今のこの議論の延長の中で、どうやったらよりよい答えになるのかということへのご意見をお伺いしたいというのが、私の思いだということなんです。

(市民)

パブリックコメントは確かにあったんやろうけども、要はここを残すか、残さへんか、今の話や。地域の話ですよ。あなたは全体のことを考えてるけど、もう市のことはちょっと任しとるけども。

要はこの思いをどういうふう考えたってのということ、じゃここに対しては、あんなパブリックコメントはどこでやったか知らんけども、聞いたと言うてるけども、ここはあくまでも久代会館のこの辺の人が集まってやってるわけやから、このプロセスを白紙ゼロにせい。この時には第2期こども・若者未来計画のパブリックコメントやろ。ここは、久代幼稚園と川西南保育所の残すか残さんかという議論。それを残してくれという意見が多いという中で、そういう意見を持ってこられても、非常にプロセスがなってないと。第一なってないのは説明会をさっき開いて、パブリックコメント後です。

そんなプロセスがあるか。おかしい話や。要はパブリックコメントをやって意見を聞いて出した中でタウンミーティングをやって、いろいろ出た中で、市がこういうふうにやりましょうかというのは部下にゆうて説明する。それが説明会や。説明会を先した後、今言われたから来たんやけども、タウンミーティングをやるといのは、私は非常に不思議やと思う。

これ非常にきつい言葉やけども設置条例あるやん、設置条例は市長1人で決められへんで。これはまず、10年に廃園やというそれは議会乗せたか。議会では出てないんでしょ。議会にして賛成をもらったんですか。これはもう、議員も来てるだろうけど議会でそんな話あったんか。ないやろ。

ちょっと設置条例って皆知らんから設置条例というのは、市が作って国に基づいて作った設置条例や。これを反対する場合には、議会の賛成反対が要るんやで。これは賛成になって、こういうふうにもりました。だからはい、10年に廃園してやりますよという、そのプロセスを踏んでるの。それを踏まんとなあなたが勝手に言うてんのは、これは独裁政治やで。そんなこと市議会議員何人かおるんやろう。聞いたんか。そんなん許すんか。これはもう、議会軽視も甚だしいで。

(市長)

設置管理条例については、当然どこかのタイミングで出さないといけない。例えば、設置管理条例というのは、ここの幼稚園をこの住所に置くということを記載をするもので、幼稚園に限らず公共施設全部そうなります。それを、私たちは病院もそうだったんですが、なくなるときに、設置管理条例を廃止をするということにしていますので、廃止の条例が決まってからは説明会だと思います。今は、設置管理条例を出すつもりでいるということ、皆さんにむしろ申しあげないと、設置管理条例が可決しているのに、ここに来たらそれこそ順番が違うと思います。設置管理条例で廃止するかどうかということは、最後、議会の多数決で決

まるということです。そのことは議会の皆さんも理解をしておりますので、今、このタウンミーティングでこういうふうにやりたいと言っていることを議会軽視とかというと、この件についてはもう議員の皆さんからご意見をいただいていますので、どの時期で廃止条例を出すかということは、これからの調整になると思いますけども、設置管理条例を廃止しないとこの次のアクションにいけないということではないということです。ルール上そういうことです。

(市民)

これ議会の話になってくるから非常に長引くけども、それは、その通りだけれども一応議会に諮って、こういうふうの説明します、10月に廃止って言うてんねんから、それは早う設置条例を作って、やらんことにはこんなこと言われへんで。

ほな、もし仮に設置条例の中で、議員が廃止反対となったら、どないしますの。

(市長)

反対となったら廃止出来ないということです。

(市民)

そうでしょう。それを10月に廃止しますので既成事実を先に作るということは非常におかしな話だし、俺が議員のときだったら怒るで。そんな簡単なことを、地域で説明するなど。こんなに反対が出てのんという話になってくるよ。それは非常に詭弁であって、それは出来へんことはないねと言うけども、それはルールや。一応、議会人としての、議会と市議とは両輪や、それぞれルールやそのルールが市会議員から出えへんということ自体も、私は不思議に思ってるけどね。そこではっきり令和10年で廃止やという、何で令和10年に廃止云々でいろいろ思いは聞いたけれども、2年ぐらい残して将来こども達の未来にどのぐらいの影響が出るのという話や。2年遅らしたところでここを何十年とこれから設置するとすれば、残るわけ。みんな思いになるわけや。それでこんだけ反対してるのに、なぜそういう思いがあるのになぜそういうふうな話になるの、ええ言葉を聞いたことがあるんで、これちょっと言うわ。

川西市は市民の手で、たくさんの景色が生まれた町です。市民の手でうまれた景色は、市民の共通の思いに出た思い出になり、その思い出がまちへの愛着を生みます。市民で作っていきながらプロペラ公園もあったり、いろいろスペースもあったり、もとに戻るけど、そういう思いがあるわけや。このことは誰言われたと思います。

(市長)

私が日頃から言ってる言葉です。ありがとうございます。

(市民)

そうでしょ。それはええことだと思って、これは市民の景色をつくろうとしたもので、今保護者の方が一生懸命反対してて、これほど市民の手で、景色をつくろうとしてるところは少ないと思う。こんだけ熱意を持ってるから私もまたちょっと一枚かむとか多い世代がのったんですけども、そういう思いを、あなたはいつもこのことは言うてるのに、なぜそれを、思いを、景色を変えようと。あまり聞かないのは聞いたと言うてるけど聞いてないとか聞いてるから、それをやる10年に廃止しますねという思いと、これとは全然違うと思う、私は。このことはどう。

(市長)

私は矛盾してるとは思っていません、もうこれは矛盾してると思うか思わないかという受け止め方の話ですから、繰り返しになりますけど、反対をされるご意見があるというのは、承知しているんです。承知してるからこそ私がここに来ています。順風満帆に、皆がOKというお話でしたら、それは私の仕事はなくて、反対の方もいらっしゃるからこそ私がここに来ているということだと思います。

ただ、一方でやっぱり署名活動をされた、本当にご苦労された、その思いというのは、私も報告を受けていますので、当然それはそれで重く受け止めています。

ただこれも本当に何度も申し上げますけども、確かに今の方は残して欲しいという思いを持たれている。でも、今のままだったら、保育所に入れなくて、0歳、1歳、2歳で、遠いところまでいかないといけなくてとか、そういった方たちの声も私は聞いているので、早くしていきたい。それを、もちろん賛否いろいろあって反対のご意見が強いことは、当然理解をしていますけども、私は私の思いで、この場に臨んで、お話をさせていただいているということです。

ただ、意見の相違があるというのは私も理解をしていますので、例えば「もっとここはこうするべきじゃないか」と、マルカバツかというより「ここがもっとこうなんだ」、「民営化するんだったらここが不安なんだ」とか「場所が移るとここが不安なんだ」ということに結果的にその不安がここでは解消出来ない、こっちのほうがいいということであつたら、方針を全く100%、1ミリも動かさないとやっている意味ではないです。ただ、ここでそれを判断をするということではなく話を聞く、もし変えるときにはまた別のプロセス、もう1回議会に諮ってとといったことをしないといけないと思っています。当然プロセスは、住民の皆さんのご意見を聞くということも1つです。専門家の方のご意見を聞くということもプロセスの1つです。議会の皆さんのご意見も聞いて、幅広く市民の皆さんの意見も聞いて、そういったいろんなプロセスの中で、最終、私が責任者として決めていくということを感じを持ってずっとやってきました。意見の違いがある部分はあるかと思いますが、私は久代への思いがあるからこそ何とか定員も増やしてやっていきたいと思っておりますので、その点だけはご理解をいただきたいなと思います。

(市民)

川西南保育所で、こどもがお世話になっているものです。先ほど、市長がタウンミーティングで意見を聞いて、採用不採用っていうのを持ち帰って話だったんですけど、今日のこの場の中から何か採用されることってあったんでしょうか。

(市長)

例えば、何か一緒に作るとか、保育の内容とかですね。地域として、こども園とか保育園や幼稚園というのが大切だというのは、改めて実感をしました。3者協議会としか書いてなかったですけども、例えば、これは地域の方がいらっしゃることで、私から言えないですけど、例えば、どういうこども園にするんだとか、これからどういう運営をしていくのかといったことを決めるときには、地域の方も一緒に、携わっていただいでこども園をつくっていくということが出来ないかということは、ちょっと研究をして、お返しをしていきたいということが1つです。

交通の問題についても、コミュニティの代表の方からは、ここの道路ちょっと危ないんじゃないかというのは事前に資料なんかもいただいて拝見をしていますので、改めて近所の方も含めて、建つ段階になったら、ここはどうだ、ここはどうだということは、しっかりとお話をさせていただきたいと思っています。改めて

いろんな方法、こんなことが出来ないかっていうことをご提案をいただきました。「ここに保育園持ってこられへんか」とか「加茂に行かれへんか」とかっていうこともありました。私たちは一旦それは考えた上では難しいという判断をしています。でも、今の時点では採用出来ないと思っていますけど、採用する可能性があれば、それが本当に可能なのか、行政としてそれをするのが正しいのか、倫理的にも正しいのか、ということも含めてそこは判断をさせていただくということだと思います。

(市民)

民間を作ることにしましては採用して下さってると思うんですけど、その新しい園つくるとかもどうでもよくなって本当に。残して欲しい、とにかく。それに関しての何か採用意見はありますか。

(市長)

公立保育園のまま、80人定員のまま、ここの川西南保育所を残すという意見ということですか。

(市民)

そうです。例えば0歳児が少ない、受入れられないんだったら、0歳児も受入れられるような設備にするとか、廃園っていう考えをそもそもなくすような、皆さんがおっしゃってくれた意見を採用して欲しい。

(市長)

今の施設で0歳児を受け入れるのは非常に困難だと思っています。そのような形で、マルかバツかということについて変えるということは、ご意見をいただきましたけど、私自身は民営化のほうで進めていきたいと思っています。

(市民)

続くんですけど、そのあと1個なんですけど、今日の資料の中に、そのこどもへの影響を最小限にとどめるっていう資料があったんですけど、うちのこども、年長になったら、どこの園も利用出来なくて就学前の最後の大事な時期に転園しないとイケない。

全く知らない、友だちもバラバラ、知らない環境。うん。それが何で最小限といえるのかなって。わからなくて教えて欲しいです。

(市長)

こどもたちがバラバラということは、基本的には考えておらず、今、川西南保育所に通っていただいている方、そして久代幼稚園に最後1年間通っていただいている方は一緒の園に、希望すればですが、そちらに移っていただくということです。

引継ぎについては最小限と言いましたので、全く影響がないと言うつもりはありません。特に最終年の方は、引継ぎについて不安に思われているところについては、引継ぎの方法を検討する。民営化は全国各地たくさんある事例の取組だと思います。多いのは事前に例えば3ヶ月前とか半年前とか、期間はそれぞれですけども、民間の新しい園の先生方に入ってきていただいて、保育をしていただくというのが1つです。こういったことをする中で、最小限にとどめていく。

私としては川西南保育所の職員は出来たら川西全体の保育園やこども園で働いていただきたいと思っていますけども、様々な働き方をされておりますので、もし、この継続的な園で働きたいという方がいらっし

やったら、それは一般的に園が移る時っていうのは、行政ではそういうことはあまりしないですけど、例えば総合医療センターと市民病院のときはですね、既存の看護師の皆さんにですね、民間人として市民病院に残るか、別の選択肢かっていうことを、お聞きさせていただきました。今回、それをするという予定は今のところないんですけども、もし、残りたいんだという方がいらっしゃったら、もちろんそれは私たちもご相談をさせていただくということだと思います。そういった、できる方法はどんなことがあるのかという部分は、これからもしっかりと考えていきたいなと思っています。

(市民)

ちょっと、話題が変わるかもしれないんですけど、費用面であつたり民間になることへの懸念、今、世間的に、保育園が倒産が増えている。要は民間園が増えすぎて、倒産して、倒産件数が今、年々増えてきているというデータが最近出たのはご存じですか。なんで今さら民間園を増やさないと行けないですか。公立が駄目なのですか。

(市長)

公立を増やすつもりがないということです。

(市民)

民間園を作っても、今も民間の半分が経営悪化、赤字が30%、減益が25.1%。

やっていけないんですよ。今のままだと。たぶん。全国的に見てですね、その中で民間園だから、民間の力を借りて、やっていけますという判断はちょっと古いような気がするっていうのが私の意見です。

(市長)

おそらく地域によって違うと思います。圧倒的な少子化が進んでいる過疎地などでは当然そういうことはあり得ると思います。こども全体の数が減っています。川西市に関しては、今までは、0歳、1歳、2歳で保育園に行かれる方というのは、おそらく平成30年度ぐらいには全体の40%ぐらいで、50%切っていました。でも、今は少子化にも関わらず、保育所を利用される方全体は増えております。全体は増えておりますので、それは50年後まであるかという、50年後はさすがに人口規模とかもわかりませんが、一定、何十年間に渡っては、0歳、1歳、2歳の数が増える、40%ぐらいしか利用されてなかった方が、50%、60%になり、ということになる。当面経営は継続するんじゃないかと思います。経営が駄目になる理由というのは、こどもが入らないということです。こどもが入らなければ当然廃園になる、倒産をすることになる可能性というのはないことはない。ですが、川西市においてはそれは当てはまりにくいと思います。

(市民)

自治会の会長しています。用地の提案なんですけども、今そこに橋渡ったところ、今田んぼをですね、ちょっと潰してまして、あそこの土地でも、川西市の社会福祉協議会が市民農園として無料で使わないですかっていうことで提案いただいた土地なんですよ。

(市長)

どのへんですか。

(市民)

はい。ここです。私も詳しいことはわからないんですけども、地主さんがもう畑が出来ないと、農地が実施出来ないから、それだったら無償で地域の方使ってくださいということで、当時ですね障がい者の方とか、ひきこもりの方なんかも入って、来てもらって、みんなで耕そうと話してたんで、もしよろしければ、その地主方と社会福祉協議会の方の連絡先知ってるんで、ぜひ地主さんに相談していただいて、もしも地代とか売却とか話があるのであれば、近いですし、また先ほど言われたように、体験とかもできると思うんで、何かぜひ検討してください。以上です。

(市長)

ありがとうございます。さすがに人様の土地を先にあてにして計画を立てられませんでしたので、もし、これが規模的に合うかどうか入るかどうかというのは、前提条件になると思いますし、地主様のご意向がそれでもいいのか、値段的に合うのかということがあろうかと思えます。せっかくご提案をいただいたので、道路とかも含めて、総合的にまた考えたいとは思っています。

一方で、市が買ってというよりも、民間の方に借りていただいたり買っていただいたりということが前提になります。例えば、市としてはここが用意出来ます、久代団地跡地は無条件で用意出来ます。この大きさ、この金額で借りてくださいとか買ってくださいと。この新しい土地だったとしたら、今地主さんはこういうふうな条件で借りてください、買ってくださいと言っていますということで、条件が合えばですね、こちらを選んでいただくということも、不可能ではないのかなど。というのは、これまで誘致した民間こども園は、自ら地主さんと交渉して土地を確保されたという経緯もございます。

その土地の形状上、何が建てられるのかということもわからないのですが、私も、久代団地に是が非でも何とかしたいとかっていうことより、令和10年度に1日も1年も早く、課題を解決するための場所がどこだということが判断基準ですので、久代団地よりも条件がいい、久代団地よりも早くできるという場所が、その他にも、実はここの土地、おれ持ってんねんとか、ここの持ち主とかっていう話であれば。

(市民)

論点がちがうで

(市長)

いや、土地の話ですね、新しい土地でどうですかということは、新しいご提案なんでちょっと持ち帰らせていただきたいということです。

(市民)

長い間、いろいろお話いただいて、わからなかったことも結構あって、市は市としていろいろお考えになられているのはよくわかりました。市長は元からね、市議会議員のときから、地域の声をいろんなところ行って聞いてくださってました。それを思って、今日も来たんですが、我々としては、この久代に住んで、私も先ほども言いましたように久代コミュニティの運営の中に入ってですね、これは本当、コミュニティ、この地域駄目になっていくなど、と思いました。

それがですね、今こうしてこういう議題を初めて聞いて、残念ながらこれ令和5年のときは、ほとんどコミュニティとしては、衰退しておりましたというか衰退の方向です。残念ながら若い人の声というのが聞けなかった状態で、コミュニティの運営はほとんど高齢者の意見をもとに進んでました。それで、今こうして

やってね、若い人たちとコミュニティのほうも、いろんな話を若い人から聞いてですね、これではいかんと。そしてこのコミュニティを、この久代をよくするためには、やはりコミュニティというのはやっぱり必要やと。その中に若い人と交えてね、今後コミュニティ久代としてこの久代地域を、本当に素晴らしい、子どもたちが巣立っていく、そういう環境を作ってあげないと、それはやっぱり私達だけでも出来ません。保護者だけでも出来ない。

やはり、みんなの力を借りんと、子どもはやっぱり育たんちゅう事ですよ。そのためには、やはり今、何で保護者がこれだけ反対してるか。利便性あります。もちろん、それも1つです。それだけではなくて、ここの場所と、ここの教育、これに保護者の方が、いかにここで育てることがまず第一歩として一番やと。ここが一番やっぱり素晴らしいと思ってるからこれだけ保護者の人が声を上げた。もちろん保護者の方ですから、自分たちの子ども、市の子ども園やね、市の保育所やいろんなところをやっぱり、調べられたと思うんですね。

その中でも、やはりこの久代の保育所が、やっぱりいいと。保護者が決断して、子どもを預かってもらった。保護者が一番安心して預ける場所だった。それっていうのはすごい大事で、その保護者がここを希望する以上、久代コミュニティとしてもおそらくこれは、反対するしかない、ここに残してくださいと。

我々は、そうして、久代のまちをよりよくするためにも、この意見には賛同できるし、協力していきたいと考えますんで、今後それをですね、できるようにこちらとしてはそういう考えであるということ。市長にも持ち帰っていただきたい。そちらにはそちらの考えがあるとは思いますが、それも加味していろいろ検討して、今言われたように市長もここやと決めてるわけではないとおっしゃってますし、もう一度いろいろな面で子どもを育てるということ、どのようにして子どもを育てるのが一番いいのか。どういう環境づくりをしたらいいのか。地域の人たちが子どもを育てる、そういう地域にできるコミュニティを作っていけるような形で、また支援していただければと思いますんで、よろしくをお願いします。

(市民)

先ほど皆さんお話されましたけど、やっぱりね、あれですよ、結局は決まってないんですよ。議会に出てきてないし、その何たら条例案が。それで諮っていただけるっていうことなんですよ。それがないと川西南保育所を壊すことが出来ないんですよ。

(市長)

はい。

(市民)

やっぱり私たちのね意思として、表出したいと思います。皆さん反対やと思う人ちょっと赤いカード挙げてもらっていいですか。ありがとうございます。やっぱり地域としてもね、保護者としてもね、ここの川西南保育所を廃園するっていうことは反対です。はい。民間さんどうこうとかいう気持ちは全然なくて、民間さんで建てはるんやったら選択肢が増えるっていう意味ではいいと思うんで、建てはったらたらいとは思いますが。この川西南保育所、絶対守っていきたいです。はい。今のこの光景というかね、やっぱり反対しに来てる。つぶさせたくないという思いが強いついていうのは、やっぱり心に留めて欲しいなと思います。よろしくをお願いします。

(市民)

今日の資料の6番。施設別入所保留児数というこれ多分、前回の説明会で、その施設がどれぐらいいるのかっていうのを知りたいという声で入れていただいたと思うんですけども、これの裏の一番下の全部まとめていただいているところ、公立と民間のそれぞれの入所保留児の合計が書いてありまして。公立認定こども園が38、公立保育所13、民間保育所27、民間認定こども園13。これ、市民全体で見てもやっぱり公立園に行きたいっていう声大きいということだと思っんですけど。2割しかないんですよ、公立園って。それも圧倒的に、入所保留児になってるのは公立園のこどもたちで希望。

皆さん、公立園に入りたいっていうのは、別に久代に限ったことじゃなくて、全体で、他の近くの民間園に行きたくないから公立を選んでいるので、この場合は。公立園に行きたいから保留なんですよ、この数は。これについてどうお考えですか。この数について。

(市長)

公立を選んでいただいているということはありがたいです。公立を評価していただいているというのは、市長としては嬉しいと思っています。ただ、公立がいいからということなのか、例えばお兄ちゃんお姉ちゃんの関係とかで2箇所3箇所というのは難しくってというケースもよくあります。ですので、一番大切なのは、公立がどうだ民間がどうだということよりも、0歳、1歳、2歳の受け皿である定員をしっかりと増やしていく、このことが私は重要だと思っていて、それをしていくためには、公立ではなく民間の力を借りて増やしていくということを原則に考えているということです。

(市民)

いや、であれば、定員をふやしたところで、入所保留児は減らないと思うんですけど。

今この公立をみんな希望してる中で、定員を増やすっていうのはすごい理解できるんですけど。それと、今の公立を望んでいる保護者が多い現状をどう考えてますか。

(市長)

これは、第1希望の人のみ入ってるんですかね。

(事務局)

資料のつくり方の説明になりますが先ほど見ていただいたところの欄外に※マークがついてあると思うんですけども。2つ目の※のところ「各施設を第1希望としている人数で集計」という形で記載させていただいています。入所の申込みされた方はよくご存じだと思うんですけども保育所、こども園へ入所する際には第1希望、第2希望、第3希望、第4希望と第10希望まで書けるようにはなってるんですけども、自分が希望するところ、どのあたりまでなら、行ってもいいかなというようなところを順番に書いていっていただくと、その中で点数ですね、いわゆる点数でちょっと順位決めてしまうことになるんですけども、希望するところの中で順番に入所していくと。だから、例えば1つしか書いてなければその中で、順番が高くないと入所出来ない、2つ3つ書いてあったらどこかで、入れる順番になっておれば入れるという形になるかと思えます。そこで、第1希望として書いていただいたところの集計になります。もしかしたら第2希望も公立かもしれないし、第2希望は民間かもしれないし、そういう数字になっております。

(市民)

この資料の確認で、結局入れなかった人の数、その第1希望書いてそこに入れなかった人じゃなくて、ど

こも入れなかった人ですよ。

(事務局)

おっしゃる通りで、もちろんこの中には企業主導型っていうところとか、幼稚園とかいうところになって3歳とかいろいろあるんですけども、認可の保育所の中では保留になっているところの数であります。

(市長)

補足すると、第10希望までっていうのも全部今、AIを使って全部自動で振り分けるんです。ここ、ここ、ここ、って決まったときに、どこも入れない方たちがいたら、例えば、第1希望川西南保育所がだめで、第2希望仏光がだめ、第3希望あおい宙もだめで第3希望まで書いて全部だめだったときに、例えば加茂が空いている状況だったら、加茂空いてますよとか、あおい宙久代空いてますよ、ということ声をかけさせていただくんです。

そのときに、私は小規模はちょっとという方は、空いているのに、断られたということをもって待機児童ではなくて、希望のところに入れなかった入所保留児となります。ですから、川西南保育所だけ選んでいたかどうかということはデータ上はとりようもなかったということです。

ただ、一方で定員が増えると希望をたくさん分散出来ますので、公立しか嫌だっていう人は、より入れるのかもしれませんが。いろんなところに入れるように、しっかりと受け皿を広げていかないといけない。公立だからいいという方もいれば、近くだからいいという方、いろいろあって、お一人おひとりに聞いているわけではないのですが、ただ、結果公立を第1希望にされる方が多いというのは、評価としては我々も受け止めています。

(市民)

いや、なのであれば、民間園のほうで受け入れているこどもの数と、民間園の施設数からすると、今の市長の説明だとその割合ぐらいになるはずなんですよ。公立と私立を第1希望にして入れなかったっていうのが圧倒的に公立が多いっていうのは、かなり公立を皆さん希望されている現状だと思うんですけど、そこで民間の定員を増やしても、減るとは到底思えないんですけど。

(市長)

私は減ると思います。やっぱり定員を増やすというのが最優先だと思います。もちろん、ちゃんとした園であるということが前提ですけど。

定員を増やさないとイケませんので定員を増やすためには、民間の力を借りたいということなんです。

(事務局)

子育て支援に関するアンケート調査というのを計画策定の基礎調査として実施しています。そのときに、教育保育施設を選ぶ条件っていうのを、アンケートで調査をしています。そのときに、圧倒的に多かったのが、教育保育の質、中身の話です。市立、もしくは私立にこだわるか、そこを優先するかっていう数字は、極めてパーセントとしては少なかったです。あと、地域、場所がどこかっていう通いやすさっていうところは、確かにかなり選択の条件、要素になっているということがありました。この資料6を見ていただいても、個別個別1つの保育所、もしくはこども園の入所保留者の数を見ていただくと、公立保育所に集中しているというよりも、入所保留児がたくさん出ている地域の保育園などでは民間でもたくさんの保留児の方がいら

っしゃるっていう状況が見てとれます。ただ、こども園に関しては市立のこども園への入所保留数が多くなっているという状況です。

(市民)

2時間半ぐらいになってるんですけど、本当何の意味があるんだろうなって平行線だなって思う。悲しいなと思いつながら聞かせてもらっていました。ちょっとお聞きしたいのが、特別支援のことでお聞きしたいんですけども、配慮を要するこども達がいると思うんですけど、年々増えてきているんで。私、他市で保育施設で働いています。民間でも働いたことがあります。そんなことはないようにするって多分おっしゃると思うけど、ただやっぱり私立っていうところは、やっぱり経営していかないといけないっていうところもありますし、やっぱり方針には合わないんですということ、配慮を要する子が出ていかないといけないような状況になってしまったりだとか、受入れてもらったとしても、うまく見てもらえなかったりだとか、いうことがあります。

公立の先生っていうのは、研修研究をすることが義務です。なので、必ずそれは受けています。研修計画させていただいてる先生が入ります。でも、確かに民間の先生も確かに今はすごく参加もされていたりとかもして、皆さんもすごく困っていることもあるっていうことも聞いてますし、特別支援に関してはすごく悩みが多いっていうことも聞いています。やっぱりそういう民間では合わないということも子どもたちが追い出されて、公立に最後の受け皿としてやってくるっていうことも、実際としてはやっぱりあるんです。事実なんです。でもそんなことがしないようにするっていうふうに、きっと先ほども資料の中にも、保育所、民間と公立は一緒なんだということで、国家試験を保育士であるとか、あと何もわかり切ったこと書いてあるんですけど、もうそんなことは当たり前だと思うんですけど、でもやっぱり、公立が最後の受けた特別支援はやっぱり公立でしか受けられなかったりだとか、受けていてもうまく配慮を要するこどもにちゃんとした援助、出来なかったりだとかということが民間にあたりすると思うんですけど、やっぱりその最後の受皿として、配慮を要するこども達のことはどう考えでしょうか。

(教育長)

はい。中身のことなんで私のほうで、お話しさせていただきます。特別支援に対する考え方っていうのはもうここ近年、学校教育もそうですけども幼児教育保育の中でも広がっているところです。先ほどもありましたけども特別支援に関する研修というのは、民間も公立も同じようにやらさせていただいて主体的に民間園の参加、多くなってきているというのが現状です。それと、特別支援に対応する民間園ですかね、今、一定補助を出して市独自の補助を出して、受入れに支援をお願いしているところで、そこもかなり民間園からは好評といいますか、支援をもっと続けて欲しいというお話は聞かしていただいています。先ほど言いました、公立として福祉的な面での、やっぱり核となるということで、拠点、先ほど言いました特別支援もそうですけども、医療的ケアの必要なお子さんであるとか、そういうところはまず、公立、中心にやっていきたいなというふうに思っていますが、これから先のことをずっと考えたときに、民間園もやっぱりそれに対応していかなければ、経営が厳しくなるし、教育として成り立っていかないとというふうに思っておられる施設長の方も多いですので、今後も続けて、研修とか市としての支援の在り方とかは、また市長部局と相談していきたいというふうに考えています。

(市民)

先ほど行政の方が教育の質のアンケート取られたとおっしゃってたんですけど、そのアンケートは、その

分母はどこでとられたかなと思ひまして。今回川西中学校区、川西南中学校区の保留児童数が多いというお話なんですけれどもそのこのほうの分母でとられましたか。それとも、川西市全体として、教育の質とかそういうのでアンケートとられたんだったらまたちょっと違うのかなと思うんですけども。

(事務局)

アンケートにつきましては、市全体から子育て中の保護者の方を無作為抽出をして、アンケート調査を行ったものですし、調査内容も、教育保育の質に限るものではなく、現在の子育て支援に対するご意見であるとか、幅広くお聞きしたものです。

(市民)

公立か民間かというお話の中で、そのアンケートをもとにしてのはちょっと、それでしたらおかしいのかなと思うんです。その入所保留児が川西南中学校と川西中学校区に多いというお話で、それでそのアンケートもありきでそういうお話をなさってるということでしたら、この校区の保護者でそういう公立、民間はそういうことも通った上でのアンケートだったら分かるんですけども、それじゃなくされたらちょっとそれはおかしいかなと思います。

(市長)

アンケートは、こども・若者未来計画を作るために取ったものですから、民間がマルかバツかということにとったものではなく、市全体の子育て施策を考える上で、参考となる資料という意味でやらせていただきました。施策はもちろん賛否いろいろあるものなんですけれど、全体のバランスをとるという仕事上、1つずつ、「これマルですかバツですか」という聞き方というのはしません。

基本的には、こういう大きい枠組みを作った上で、皆さんからご意見をいただき、そして今回はその中で、ここの1つの分野について意見交換会をしている。ですから、子育て施策全体のアンケートは、無作為ですから、突然お手紙が来て、アンケートに答えてくださいという、何の意図もなく取った中で判断材料にしているとご判断いただけたらと思います。地区別に分けているのか、ちょっとそこまではわかりませんが。

(市民)

どうも長いこと、時間が来てるのでやめると言わんとさすがやなと思つてますけども、くどいようですけども、再度また繰り返になりますけども、今の場所、この場所というのは非常に地域の思いがあるということで、話を聞いてると久代団地移すメリットというのが、お金の話も出てましたけども、あまりないなと。聞いているほうに思つては、何のメリットは。

そこまでせないかんのと。久代保育所でもう建て替えはできるやんという思いがありますし、今来られたのも、100%そこにするという話ではないと、一応話を聞きますということをお初言われたので、これから、皆の意見を尊重して、再度、この場所に建てる方法、仕組みというのを考えてもうて、どうしても久代団地というのであれば、その費用の面とか、そういう話ではどういうメリットがあるのかという話をきちっとしてもらわんと、多分この住民は納得しない。ここで建てるデメリットは何やと。家が建てるのに、潰すのに非常に難しいと。そんなことは理由にならん。今、狭いところでも建てられるし、ここを両方、こんだけの敷地があれば、建て替えは十分できると思う。それが1年遅れようが、2年遅れようが、そんなにこれから何十年続くあれの中で、デメリットにはならんというふうに、もう一度再度考えていただきたいなと。この地

域の思いは、この間のことはもっとすごかったですけども、そういうのをまた聞いておられると思いますから、今日の雰囲気とか、赤い旗も配ってたみたいやけども、そんだけの思いがあると、自分たちでこの地域を景色を変えていきたいという思いがあるということをも十分理解して、もう一度、また、諮っていただきたいなど。

これなんべんも言うようやけど、タウンミーティングは、我々は2回目だということだけは承知しておいてください。はい。そういうことです。

(市長)

意見を聞く気がないみたいに思われたかもしれないですが、皆さんの一つひとつの意見はちゃんと記憶もしていますし、それがどうやって実現可能かということも考えた上で、今一番いい選択肢だと思ってご提示をさせていただいているということです。公民館も近くなるとかのメリットも言えばよかったですけども、そういったことも含めて、別にここで終わったから、もう二度と意見を聞かないということではなくて、皆さんが来ていただけるのであれば、私も繰り返しこの場所にはお邪魔させていただきたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

(司会)

皆さん、たくさんのご意見ありがとうございました。

以上をもちまして、タウンミーティングを終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。気をつけてお帰りください。